

関西医科大学 広報



看護学部・大学院看護学研究科一期生

看護学部・大学院看護学研究科 一期生入学

Vol.41

CONTENTS

大学：平成30年度医学部入学式・
看護学部入学式

P.1～

大学：Times Higher Educationランクイン

P.21

法人：関医デイケアセンター・香里開設

P.11

病院：アレルギーセンター公開講座

P.28

法人：看護学部・大学院看護学研究科概要、
新任教授紹介

P.12～

附属看護専門学校：
看護専門学校入学式・式辞

P.31

平成30年度医学部入学式



告辞を述べる友田学長

4月5日(木)午後1時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成30年度医学部入学式」が行われ、122名の新入生が医学の道への第一歩を踏み出しました。

式では友田幸一学長が告辞を述べ「難関を突破して大学に入ることにはゴールではなく、医師になるためのスタートラインについたに過ぎない。関西医大人としての誇りをもちながら充実した学生生活を送ってほしい」と、歓迎と激励の言葉が贈られました。

入学式告辞（抜粋）

学長 友田 幸一

春爛漫の季節、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

本日122名の新入生の皆さんを迎えて、入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。またご臨席をいただきましたご来賓の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

皆さんは3,212名の受験生の中から競争率約26倍という難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様にもまずは心からお祝いを申し上げます。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年

で創立90周年を迎え、卒業生総数は8,255名からなる歴史と伝統のある大学です。

今、皆さんがおられるこのキャンパスは、甲子園球場が二つ入る大きさで、「グリーン&エコ」をモットーとし、5年前にオープンしました。以前は3つに分かれていた学舎を統合し、「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の教育・研究施設」、「最先端医療を担う附属病院(本院)」が隣あわせに立地し、スカイウェイで直結する超近代的な学園に生まれ変わりました。新学舎の4階までは講義室、実習室、講堂、図書館などの教育施設が、5階以上は臨床と基礎の全講座の研究室及び居室が、そして中層棟は近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究部門が配置されています。この4月からは看護学部棟が完成し、4年制の看護学部と大学院が開講します。近い将来



は、国際交流センターとホスピタルインを備えたタワー棟の建設や、最先端医学研究所の設置などが計画されています。一方、今年から新しい研究分野としてiPS・幹細胞医学講座やゲノム関係の部門が新設され、学術面でも新しい分野に挑戦し、次代の医学・医療の発展に貢献することを目指しています。国際的にもTHE世界大学ランキングで801~1,000位、教育力において教員一人当たりの学生比率は世界3位、また西日本の私立大学では1位と高い評価を受けています。

一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、患者さんから学ぶ場となります。本学には附属の4病院があります。この学舎に隣接する附属病院は本院で、最新、最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。大阪府下でトップクラスにランキングされ、診療はもとより経営能力においても高い評価を得た全国的にもリーディングホスピタルの1つです。総合医療センターは守口市の滝井に位置し、病床数477床の地域中核型の病院で、2年前にオープンした超近代的な病院です。急性期に対応した診療の他、チーム医療を実践する各センターが完備され、診療機能の大幅な強化を行っています。もう間もなく旧本館跡地にホスピタルガーデンも完成します。香里病院は、病床数199床で地域密着型の病院です。訪問看護ステーション、ケアプランセンター、この春からデイケアセンターを開設し、地域包括医療を実践している病院です。そして本年1月から4つ目の附属病院として関西医科大学くずは病院を開院しました。回復期リハビリテーションを中心とした診療を展開します。これら4つの病院の総病床数は1,521床になり、さらに予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせ、本学の総合的な診療機能は、大阪北東部、北河内地域の住民の健康と医療・福祉に貢献しています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。

このような関西医科大学に皆さんは入学されたのですが、大学に入ることはゴールではなく、単にスタートラインについたに過ぎません。医師になる2,000分の1歩がこれから始まります。皆さんは「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの世界を選んだことと思います。その気持ちを決して忘れず、医師になるモチベーションを保ち続けてください。

さて、本学の建学の精神は「慈仁心鏡」すなわち“慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成す

る”で、昭和7年に本学2期生の当時19歳だった宮前澄子さんによって作詞された学歌のぞみの3番にある「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野もつ人間性豊かな良医を育成することを教育の理念としています。この精神をひと時も忘れることなく知識と技能、人間性と共感力を備えた良医をめざして勉学に励んでください。学舎エントランスの左壁面にヒポクラテスの誓いが刻まれています。彼は「医学の父」と呼ばれ医師の倫理性と客観性について『誓い』をたて、“ars longa, vita brevis”「人生は短く、術のみちは長い」という言葉を残しています。そしてこの「誓い」を守り続けるかぎり「私は、私の生涯と医術を高潔に、かつ敬虔に保つでしょう」と言った言葉が壁面に書かれています。ぜひ一度目を止めて読んでみてください。

さて、皆さんはこれまでの勉強方法を大きく変える必要があります。学ぶべき医学知識は増え続け、近年遺伝子診断など技術の進歩によって未知の病気が次々と登場しています。本学ではICTを応用した新しい学習システム(KMULAS)が整備されていて、いつでもどこでも見ることができます。これを活用して予習、復習を心がけ、授業の中での重要ポイントを正しく理解することが大切です。

一方、大学は皆さんの自主性、主体性を引き出す場でもありますので、持っている才能や個性に磨きをかけてください。主体性を引き出すカリキュラムとして、1年生ではノーベル賞を受賞された山中伸弥先生の特別講義があります。他には、研究医養成コース、6か国8施設での海外臨床実習などもあります。また、たくさんのクラブ活動があります。牧野にこの春完成する新講堂は武道館を備え、弓道場も新設されます。部活動を通じて多くの友人と素晴らしい人間関係を築き、新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。皆さんの一人ひとりがこの6年間を関西医科大学で過ごしたという何か証しを残して欲しいと願っています。

また、医学生であると同時に社会人であるという自覚を持って行動してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

最後に、新入生の皆さんには、これから関西医大人としての誇りを持って、実り多い学生生活を送られることを願い、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

平成30年度看護学部・大学院看護学研究科入学式



挨拶を述べる片田学部長・研究科長

4月4日(水)午後1時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成30年度看護学部・大学院看護学研究科入学式」が行われ、看護学部100名、看護学研究科大学院生19名の新生が一期生として入学しました。

式では友田幸一学長が「看護学部第1期生としての誇りと気品を持ち、次に続く後輩たちの鏡となれるよう精励してほしい」と、告辞を述べ、学部長・研究科長挨拶では、片田範子学部長・研究科長が一期生への期待と励ましの言葉を送りました。

学部長・研究科長挨拶

学部長・研究科長 片田 範子

平成30年度関西医科大学看護学部に入学を許可された100名の皆様、おめでとうございます。皆さんの進路の選択はこれまでのご家族の見守りと応援があつてのことと思います。ご家族の皆様にも心からお祝い申し上げます。

大学院看護学博士前期課程12名の皆様、後期課程7名の皆様ご入学おめでとうございます。皆様も同僚や職場の関係者などのご理解が有つてこの機会を作られたとお察し申し上げます。

関西医科大学に看護学部・大学院看護学研究科が設置されるかもしれないということを皆様が耳にし始めたのは、昨年のこの時期からでした。その頃はまだ、十分な情報をお伝えできないことを歯がゆく思っていました。研究科の皆様も同様だったと思います。こうして皆様をお迎えできるのは教職員にとって大きな喜びです。

特に学部生は少ない情報の中、以前から関西医科大学や附属病院などのかかわりを元に、ここで学びたいと思ってくださった方、他の大学との競合の中、ここに落



ち着かれた方、様々な背景を持ってこれからの4年が始まる今、緊張と期待を持って座っておられることでしょう。

この3課程のみなさんは、どの課程でも本学の一期生です。教員は皆さんをこの看護学部・大学院看護学研究科を育てていく同士としてお迎えできることに楽しみにしていました。

看護という言葉が他国ではどのような言葉で表わしているか、3つ上げてみます。英語圏では育てるNursing、フランス語圏では人を受け入れるInfirmaries アンフィルミエール、中国では理を持って護る護理となります。慈しみ育てるといふ人類に共通する原点です。

人が生まれるとき、なくなるとき、病むとき、そして日々の生活の中での、心身の変化が生じるとき、看護はそのことを人々がどう感じ、体験し、反応するかと言うことに気をかけます。看護職には、人々の体験を深く洞察するためには知識だけではなく、心遣いが必要となります。人々が苦しみやその状態を受け入れようとするとき、その人に心を寄せ、その人が持っている力を引き出していくこと、気にかけて、支える力も必要となります。

この看護学部・大学院看護学研究科の特徴の一つになるのは誠実にことに当たり、信念を通して前進することであると思います。看護学部では4年間を通して保健師・看護師の国家試験受験資格が出来るようカリキュラムが作られており、全国でも数少ない学部です。私たちの社会は少子高齢化の只中にあります。地域に住む方々が自ら健康を維持できるような仕組みが必要で制度が大きく変わりはじめています。多くの看護職が、病院だけではなく人々の住む社会の中に進出することが期待されています。

そのためにも、自分を知ることの発見を楽しんでください。学ぶことが面白いと思って進める環境づくりを、教員は果たしていきます。本学の教育理念として、自由

・自律・自学の基本がありますが、皆さんが自らを学ぶことから始まると思います。自分の行動に責任が取れ、社会の一員としての分別を持ち、自分の学び方は「これだ!」と感じたとき、この理念の意味が皆さんの中に熟成され始めると思います。

学んだ知識を自らが実践するには感性と技能、いわゆるアートが必要となります。ですから、大いに美しいもの見に行き、楽しいと感じ、悲しいことも受け止めるあなた方自身と向き合うことをお勧めします。自分を信頼し、その自分と関わる人を信頼することを実感して頂けるように教員は関わろうと思っています。

大学院の皆様は、既に軸足を看護に置き、病院や在宅の場で病む人と関わり、自分では健康を維持できない人と出会ってきた体験をお持ちです。博士前期課程の皆様はその体験や知識を深めることで、意識的に看護する方法を作りや多職種チームを動かせる力を発揮してください。

博士後期課程の方々には看護がもたらす人々の健康への効果を、社会が納得できるように、その成果を作り、様々な専門職と共有し、公表してください。

大学院の方々にとって教員はチャレンジを仕掛ける人となるでしょう。既に社会人という立場から、いち学生になることは想像以上に自分を揺るがすこととなります。しかし、大学院では、そのゆれを体験することから成長が始まります。教員は皆様以上に皆さんを信じる人になると思います。

3課程にいる人たちが同じ学び舎で時間を共有します。学部生も大学院生もお互いを刺激しあう関係を作り出して頂けることを望んでいます。

本日は誠にありがとうございました。

関西医科大学総合医療センター病院長に就任して

総合医療センター病院長 杉浦 哲朗



この度、岩坂壽二病院長の後任として関西医科大学総合医療センター病院長を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

わたしは昭和51年に関西医科大学を卒業し、内科研修後は循環器病学を専門分野として選択いたしました。その後、米国マサチュー

セッツ州St. Vincent Hospitalに留学する機会を得、循環器疾患の診断・治療の習熟に没頭する毎日でした。その時の上司であるSpodick教授の「臨床・教育・研究」をこなすバイタリティあふれる姿に深い感銘を受け、私の医師としての基礎が築かれたとっております。

帰国後は関西医科大学附属病院第二内科において日常の診療活動に従事しつつ、主に心筋梗塞症の発症予防、急性期治療、円滑な社会復帰のための心臓リハビリテーションに関して臨床と研究を行ってまいりました。平成11年より高知医科大学臨床検査医学講座教授を務め、その後平成22年から高知大学医学部附属病院長、平成26年からは医学部長も務めさせていただきました。

総合医療センターは地域の基幹病院として、高度先進医療の提供、人間性豊かな医療人の育成、そして患者さん本位の医療を実践されております。働き方改革が叫ば

れる今、多種多様な医療スタッフおよび事務職員の皆様が各々の専門性を活かし、情報共有しつつ業務を分担・連携する「チーム医療」を推進することで労働環境の改善がなされ、ひいては最良の医療が提供できます。また、社会ニーズに呼応した病院機能・運営を強化するとともに地域に密着した中核病院として、地域医療ネットワークのさらなる充実も図っていきたくと考えております。

総合医療センターの発展と地域の医療向上のため、微力ではございますが誠心誠意努めてまいれる所存ですので、職員の皆様にはご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

昭和51年 5月	関西医科大学附属病院内科 研修医
昭和54年 7月	米国マサチューセッツ州立大学セントビンセント病院(Cardiology Fellow)
昭和57年 4月	関西医科大学内科学第二講座 研究医員
昭和59年 4月	関西医科大学附属男山病院内科 助手
昭和59年10月	関西医科大学内科学第二講座 助手
平成 2年 1月	関西医科大学内科学第二講座 講師
平成 7年 5月	関西医科大学内科学第二講座 助教授
平成11年 4月	高知医科大学臨床検査医学講座 教授
平成15年10月	高知大学医学部病態情報診断学講座 教授(組織改編による)
平成18年 4月	高知大学医学部附属病院 副病院長(医療安全管理担当)
平成22年 4月	高知大学医学部附属病院 病院長
平成26年 4月	高知大学医学部 医学部長
平成28年 4月	土佐市立土佐市民病院 名誉院長
平成28年 4月	高知大学医学部附属病院 特任教授
平成30年 4月	関西医科大学総合医療センター 病院長

関西医科大学香里病院病院長に就任して

香里病院病院長 神崎 秀陽



平成30年4月1日付で香里病院病院長を拝命致しました。本院は平成22年開院後8年を経過しており、地域密着型の一般急性期病院として住民の方々からの信頼は厚く、行政や医師会との関係は非常に良好で、また経営状態も良好です。開院時から病院長を務められ、この度任期を満了された高山康夫教授には、引き続き内科部長及び病院長付特別顧問として、また訪問看護ステーション・香里や関医デイケアセンター・香里という重要な介護・福祉領域の統括等にご尽力いただいております。

私は、平成7年からの20年間は講座主任として産婦人科の診療・教育・研究を担当してまいりましたので、その間に附属病院や学部の移転等々、本学の歴史的な大事業を経験しました。平成19年からは法人理事に就任し、本学含め私立医科大学の厳しい経営実態を痛感しながら、今春開学した看護学部/大学院の認可申請には準備室長として携わっていました。現在、本学は過去の悪夢を払拭し、医療系複合大学として良好な経営状態にあります。なお経営基盤は盤石とは言えない状況です。健全経

営を継続して教職員の良好な就労環境を維持しながら、教育・研究面でもさらに飛躍するためには、病院経営の安定が何より重要であると認識しています。

香里病院が、本学附属病院の一つとして高い専門性に裏付けられた高度で安全・安心な医療を提供しながら大学経営に貢献し、同時に医療と介護をシームレスでつないで、さらに地域に貢献できるよう精一杯努力致しますので、今後ともご支援ご指導の程を何卒よろしく申し上げます。

略歴

昭和47年 9月	京都大学医学部卒業 婦人科学産科学講座入局
昭和49年 6月	滋賀県市立長浜病院産婦人科医長
昭和55年 6月	京都大学医学部附属病院助手
昭和60年 6月	京都大学講師(医学部)
平成 5年 2月	京都大学助教授(医学部)
平成 7年 5月	関西医科大学産科学・婦人科学講座主任教授
平成15年 4月	関西医科大学附属病院副院長
平成18年 1月	関西医科大学附属病院総合周産期母子医療センター長
平成18年 1月	関西医科大学附属病院生殖医療センター長
平成19年 4月	関西医科大学理事・評議員
平成19年 5月	関西医科大学医療安全管理センター長
平成25年12月	関西医科大学感染制御管理センター長
平成27年 4月	関西医科大学名誉教授・常務理事・香里病院顧問
平成27年 4月	関西医科大学看護学部設置準備室室長
平成30年 4月	関西医科大学香里病院病院長

関西医科大学くずは病院病院長に就任して

くずは病院病院長 今村 洋二



平成30年1月1日、大学の四番目の病院として「関西医科大学くずは病院」が誕生致しました。山下理事長はじめ理事会の推挙を受け、私が病院長として再び関西医科大学に奉職いたすこととなりました。大変光栄なことと存じております。

当院は、一般病床12床、地域包括病床18床、回復期リハビリ病床30床、療養病床34床、合計94床の比較的小さな病院ですが、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリ、ヘルパーステーション、ケアプランセンターといった部門を有し、リハビリ・在宅系に特に力を入れた病院です。急性期医療後の受け入れ病院として、患者さんに対し適切かつ高度なリハビリを行い、一日でも早く住み慣れた街、住み慣れた家に帰っていただく事を使命とした病院を目指しております。今後は、慈仁(めぐみ)を心の鏡とし、急性期医療から在宅まで、安全で安心な切れ目のない良質な医療・介護を提供できる総合医療大学病院の一員としての役割を担う病院として、更なる充実

と発展を図る所存です。

病院が、いかに優れた医療機器や設備を備えていても、高度な医療や、患者さんとの心のふれあう温かな医療・介護を提供できるのは人の力です。そこにあるのは、人が人のために出来ることに全力を尽くす医療・介護のプロとしての誇りと細やかなこころ遣いです。更なる医療技術の充実を図り、医療環境を整えていく中で、こころの通った医療・介護の提供を心掛け、お互いに信頼したチーム医療を行い、患者さんの一日でも早い回復のため、全力を尽くして参ります。

皆様の温かなご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

略 歴

昭和42年3月 慶應義塾大学医学部卒業
 昭和43年8月 慶應義塾大学医学部 心臓血管外科 助手
 昭和49年8月 済生会宇都宮病院心臓血管外科 副医長
 昭和51年4月 米国デトロイト市サイナイ病院 心臓血管外科研究員
 昭和53年1月 慶應義塾大学医学部 心臓血管外科講座 助手
 平成2年2月 関西医科大学胸部心臓血管外科 教授
 平成18年1月 関西医科大学附属枚方病院 病院長
 平成25年4月 柏友会 楠葉病院 病院長
 平成30年1月 関西医科大学くずは病院 病院長

リハビリテーション医学講座教授に就任して

リハビリテーション医学講座教授 長谷 公隆



平成30年1月1日付にて、関西医科大学にリハビリテーション医学講座が開講となり、初代主任教授を拝命いたしました。平成24年に整形外科学講座・リハビリテーション科診療教授として本学に赴任させていただいて以降、飯田寛和前教授、齋藤貴徳教授をはじめ、大学、3病院、そして本学同門の諸先生から数々のご指導・ご支援をいただきましたことに改めて深く感謝申し上げます。皆様のご期待に添うことができますようリハビリテーション医学講座の発展に力を尽くす所存です。

リハビリテーション医学・医療の使命はヒトとして活動する機能を高めることにございます。その診断・治療には、運動学、神経生理学、生体工学、社会福祉学など多分野にわたる知識と技術を要します。高齢社会を迎えて地域包括ケアが推進される中、リハビリテーション医療の担い手を一人でも多く育成することを責務として講座を運営して参ります。近年では、ロボット工学などのテクノロジーが導入され、生活を支え

るための最新の医療技術を社会に還元するための行政を含めた連携が重要になっています。生活に関わる機能評価法の標準化、活動再建に有効な治療的課題の開発、健康寿命延伸のためのチーム医療と情報管理システムの構築を目指し、診療・研究を推進していきたいと存じます。そのためにも、平成30年より開院となりましたくずは病院での回復期医療や関医デイケアセンター・香里等での介護予防におけるリハビリテーション治療につきましても医局員と共に尽力して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

略 歴

昭和60年3月 慶應義塾大学医学部卒業
 昭和60年5月 慶應義塾大学医学部リハビリテーション科入局
 昭和62年5月 国立療養所村山病院出向
 昭和63年5月 国立塩原温泉病院出向
 平成1年5月 小田原市立病院出向 医長
 平成2年5月 慶應義塾大学医学部助手
 平成9年4月 カナダAlberta大学神経科学留学
 平成12年1月 慶應義塾大学医学部講師
 平成17年4月 同助教授
 平成24年4月 関西医科大学整形外科学講座 リハビリテーション科診療教授
 平成30年1月 関西医科大学リハビリテーション医学講座 主任教授

iPS・幹細胞応用医学講座教授に就任して

iPS・幹細胞応用医学講座 六車 恵子



平成30年4月1日付で、iPS・幹細胞応用医学講座の主任教授に就任致しました。新たに開設された講座での職責の重さに身が引き締まると同時に、これから始まる研究・教育の日々を心待ちにしております。

私はこれまで、「生命現象の理解を通して難病の克服に貢献する」という目標のもと、脳・神経科学分野を中心に、大学や公的研究機関の環境で基礎研究に携わって参りました。研究の対象として脳を選んだのは、その緻密な構造の美しさと複雑な機能に魅せられたことがきっかけですが、為す術のない難病の多くを神経疾患が占めていることが大きな理由です。脳の成り立ちと機能を理解することで、神経難病の治療法開発に寄与するということが私の研究の柱になっています。大阪バイオサイエンス研究所で脳研究の面白さに見せられ、大阪大学では脳の発生に関する研究を進めました。理化学研究所では脳の発生原理について研究を行い、この中でES細胞やiPS細胞など多能性幹細胞に関わることとなりました。

現在は患者さんのご協力の下、疾患特異的なiPS細胞を作製させて頂き、病態を研究することで、基礎研究で見いだされた成果を創薬や治療法開発につなげる事を目指して研究を進めています。

今後は、学内、病院の先生方とも密に連携し、iPS細胞を活用した研究を広め、次世代の研究者を育成する事にも従事する所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和63年3月	京都薬科大学薬学部 卒業
平成10年6月	学位取得 博士(薬学)(大阪大学)
平成4年4月	(財)大阪バイオサイエンス研究所 神経科学部門
平成5年4月	科学技術振興事業団 国際共同研究プロジェクト
平成10年1月	(財)大阪バイオサイエンス研究所 神経科学部門 特別研究員
平成11年1月	JST 戦略的基礎研究推進事業(CREST)(大阪大学基礎工学部) 研究員
平成14年11月	大阪大学大学院生命機能研究科脳システム構築学 研究員
平成15年4月	先端医療振興財団 知的クラスター創生事業 上席研究員
平成17年4月	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 専門職研究員
平成30年4月	関西医科大学医学部iPS・幹細胞応用医学講座 教授 理化学研究所 生命機能科学研究センター 客員研究員

iPS・幹細胞再生医学講座、研究教授に就任して

iPS・幹細胞再生医学講座研究教授 服部 文幸



平成30年4月1日をもちまして、iPS・幹細胞再生医学講座の研究教授を拜命いたしました。私の選任に関わって下さった多くの先生方、この場をお借りして心から厚く御礼を申し上げます。このご期待に応えることを常に胸に抱きつつ、日々の活動に邁進させて頂く所存でございます。私は、2002年から慶應義塾大学医学部循環器内科の福田恵一講師(当時)の研究室にて、多能性幹細胞を用いた心臓再生医療基盤技術の開発を行って参りました。この約16年間、私は、開発致しました多能性幹細胞に由来する心筋細胞の精製方法や移植方法などを、NATURE METHODS誌、CELL STEM CELL誌などに掲載し、また心臓関係で7つ、肝臓関係で1つの特許を出願致しました。関西医科大学に着任して、研究室スタッフとの議論や情報交換を通じ、研究能力と知識欲、開拓精神の

高さを感じ入りました。この強力なメンバーとの相乗効果により、心臓再生分野ではより高い到達点を目指し、躍進して参ります。また、心臓以外の分野に対してもiPS細胞のポテンシャルを十二分に発揮させるべく、研究の翼を広げて参ります。他分野の先生方のご指導ご鞭撻ほど貴重なものはございません。何卒我々の存在をお心にお留置き下さいますようお願い申し上げます。また、学生諸君においては、是非とも気軽に我々の研究室をノックし、研究に参画して頂きたいと願っております。

略歴

平成7年3月	名古屋大学理学部生物学科卒業
平成9年3月	名古屋大学理学研究科分子生物学科修了
平成9年4月	サントリー医薬事業部入社 アスビオファーマ(株)へ継承
平成14年10月	慶應義塾大学医学部循環器内科へ派遣 平成30年3月末まで
平成15年7月	名古屋大学にて理学博士号(論理)取得
平成24年10月	慶應義塾大学医学部循環器内科 講師(非常勤)(継続)
平成30年4月	関西医科大学iPS・幹細胞再生医学講座研究教授

医療安全担当理事長特命教授に就任して

医療安全担当理事長特命教授 宮崎 浩彰



平成30年4月1日付で理事長特命教授(医療安全担当)を拝命いたしました。本学の医療安全を担当するという職責の重さに身の引き締まる思いです。

私は昭和63年に本学を卒業し、1年間の内科研修の後に内科学第三講座に入局し、肝臓病を中心として診療に従事してきました。

平成18年からは、他学に先駆けて設置された医療安全管理センターの専任教員として配置され、医療安全管理に重点を置くようになりました。また、平成28年からは、准講学会長として本学の発展に寄与すべく活動してきました。

医療安全管理センターでは、マニュアルや説明同意書の標準化、およびアレルギー情報の共有化などに取り組み、特に説明文書では千件近い文書を作成・改訂することで、説明不足による医療紛争の減少を図ってきました。また、チーム医療を推進する目的で米国 Agency for Healthcare Research and Quality が開発した「チーム STEPPS」(Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety: 医療のパフォーマンスと患者安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法)を附属病院に導入し、私どもが主催するセミナーに

は他施設の医療安全に関係する多くの方が継続的に参加されるなど、国内の普及拠点の一つとして活動しています。

私たちが提供している医療は不確実なものであり、医療者も「弘法も筆の誤り」や「To Err is Human (ヒトは誰でも間違える)」のごとく万能ではありません。このため、医療事故防止にはシステム対策が重要ですが、投下できる資源には限りがあります。必ずしも十分とはいえない我が国の医療資源の中で医療安全管理体制を充実させることは極めて困難な課題ではありますが、引き続き神崎秀陽医療安全管理センター長のもと、皆さまとともに附属四病院の医療安全向上に努める所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和63年3月	関西医科大学卒業
昭和63年6月	関西医科大学附属病院内科研修医
平成元年4月	関西医科大学内科学第三講座研究医員
平成2年7月	済生会兵庫県病院出向
平成3年3月	同上帰向
平成6年4月	関西医科大学内科学第三講座助手
平成18年7月	関西医科大学内科学第三講座講師
平成18年11月	関西医科大学医療安全管理センター講師
平成24年12月	関西医科大学医療安全管理センター准教授
平成27年10月	関西医科大学医療安全管理センター病院教授
平成29年4月	奈良県立医科大学非常勤講師
平成30年4月	関西医科大学理事長特命教授(医療安全担当)

附属生命医学研究所ゲノム解析部門学長特命教授に就任して

附属生命医学研究所ゲノム解析部門学長特命教授 日笠 幸一郎



平成30年4月1日付で関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門学長特命教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました友田幸一学長、木梨達雄教授、松田文彦教授、ご支援いただいた多くの先生方に心より御礼申し上げます。本部門の設置に際し新しい職務をいただき大変光栄であるとともに、重責に身の引き締まる思いでございます。

学部では物理学を専攻し、大学院にて分子生物学を学ぶ間に将来的なゲノム情報処理技術の重要性を感じインフォマティクスを始めました。ゲノム情報解析と実験手法を融合したテーマで学位を取得した後、理化学研究所での統計遺伝解析、東京大学ゲノム医学センターの設置と解析システムの構築業務を経て、京都大学ゲノム医学センターにて遺伝性疾患のゲノム解析に従事して参りました。ゲノム医学関連施設の設置と解析実務から蓄積してきた経験と技術を本部門にも活かし、本学のより一層の発展を目指して邁進する所存でございます。また教育面におきましては、我が国で深

刻化している統計遺伝・生命情報学者の人材不足を改善すべく、最先端のゲノム解析技能が修得できる魅力的な教育を行い、将来のゲノム医学研究を主導あるいは支援できる人材の育成に尽力してまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

略歴

平成8年3月	九州大学理学部物理学科卒業
平成15年3月	九州大学医学系学府分子生命科学系専攻博士課程修了
平成15年4月	九州大学生体防御医学研究所遺伝情報実験センター 産学官連携研究員
平成17年4月	九州大学生体防御医学研究所遺伝情報実験センター 学術研究員
平成21年4月	独立行政法人理化学研究所ゲノム医科学研究センター 研究員
平成22年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻 特任研究員
平成24年4月	京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター 特定助教
平成25年4月	京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター 特定講師
平成26年4月	京都大学学際融合教育推進センター・スーパーグローバルコース 特定講師
平成28年4月	京都大学学際融合教育推進センター・スーパーグローバルコース 特定准教授
平成30年4月	関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門学長特命教授

総合医療センター病院長退任にあたって

総合医療センター前病院長 岩坂 壽二



本学を卒業して49年間、内科学第二講座で学び、平成22年には附属滝井病院(現総合医療センター)病院長に着任し、本年3月に病院長任期8年を何とか無事に終えることが出来ました。

助手時代には国立循環器病センターCCUに故塩田登志也教授に連れられ、グループを組織せよという命を受け、2年後に立ち上げました。その後4回CCUを新設し、2代目はCCU内に冠動脈造影室を設け、当時の画期的施設でした。平成28年に救命センターに世界初のCT/IVR導入の相談を受けた時には、飛びつきました。

CCU開設の頃は本学循環器内科の存在は全国的に周知されておらず、とにかく目立つため循環器病学会に

15~20題発表し、米国循環器学会へ進出しました。当時杉浦哲朗助教授の英語力に助けられました。新聞にも積極的に情報を提供し、載せていただくことにより広報の大切さを知りました。

病院長時代には老朽化が激しく、雨が降るとバケツを持って走る病院から、山下敏夫理事長の英断で、高機能はもちろんデザイン面でも職員が胸を張り、誇りの持てる総合医療センター本館が、平成28年5月に開院しました。

フルスケールの精神科を有するセンターではリエゾン医療を木下利彦教授の力を借り展開し、患者の健康力を引き出す医療が出来ると考えています。経営効率の悪い病院ですが、職員は患者さんにやさしく、努力を惜しまない方々です。もっと好転すると信じています、長い間、ありがとうございました。

香里病院病院長の退任及び介護福祉担当理事長特命教授の就任にあたり

香里病院前病院長／介護福祉担当理事長特命教授 高山 康夫



関西医科大学香里病院準備室長の後、平成22年7月の香里病院開院後から病院長を4期8年間勤めさせていただきました。夕方診療や専門分化していない内科など、準備室のときから運営に不安を抱えていた大学病院としての新しい

試みも、近隣の開業医の先生方からご理解を頂き多くの紹介症例を得る事が出来ました。開院2年後には香里園駅前再開発事業の工事も落ち着き、しだいに外来患者数も増加して参りました。夕方診療にも参加していただける診療科が増加して、日が暮れてからも病院の外来に多くの患者さまが訪れていただけるようになりました。準備室の当時に想定していました患者数を遥かに超える外来患者数となり、外来スペースが足りない状況が続いています。

香里病院の基本理念は『慈仁心鏡を礎に地域とともに歩む病院』です。高齢化社会を迎え、香里病院でも積極的に地域医療に貢献するために、平成28年4月から関医訪問看護ステーション・香里を開設いたしました。訪問看護ステーションを開設してみますと、我々の介護制度

に対する理解が乏しいことを痛感いたします。急性期病院からの退任にあたり、在宅での医療の継続は重要な課題です。このためには、退院患者の病態を理解したケアプランの作成が重要ではないかと考え平成29年5月からは関医ケアプランセンター・香里を開設いたしました。平成30年4月からは、退院患者のリハビリ継続と訪問リハビリから通所リハビリへの在宅症例のステップアップを目指して、関医デイケアセンター・香里も開設しています。これからの地域医療を考える時に、これら3事業の役割は大きいと期待しています。

香里病院長退任にあたり、介護福祉担当理事長特命教授を拜命いたしました。医療と介護福祉の連携が重視されている時代に、この様な重要な役割をいただきました事を変え光栄に思っております。香里病院長として取り組んで参りましたこれらの事業を発展させる事が、これからの大切な使命と思っております。これら3事業を始めますと、この領域の人材育成が大きな課題であることを実感させられます。香里病院では引き続き内科部長として勤務し、微力ではありますが地域医療に少しでも貢献していきたいと考えています。これからも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

退任に際して

生理学第一講座前教授 松田 博子



私は、本年3月末に定年を迎え、本学を退職します。平成6年2月に教授に就任して以来24年間、大学ならびに皆様方にお世話になり有難うございました。

長くも短くも感じられる24年間でした。カリキュラム改革のため、最初の年に、2学年、3学年に、時期を少しずらして講義をしたのも懐かしい思い出です。毎年の最初の講義では、正常な生体機能についての理解は、病理学や薬理学を学ぶ際、さらに臨床に進んで症候論を学ぶ際の基礎になること、ある前提から結果(法則)が導かれる過程を理解することが大事であることを強調しました。学生の皆さんにどこまで伝わったかわかりませんが、2,000人を超える医師の育成に携

わることができたのは、望外の幸せでした。

前任地の生理学研究所、九州大学医学部では、心室筋細胞の内向き整流Kチャネルの整流特性発現機序について研究してきました。平成5年に内向き整流Kチャネル遺伝子がクローニングされましたが、大森浩一郎助教授の協力で、着任後すぐに遺伝子導入により発現したKir2.1チャネルを用いた研究を開始できたのも幸いでした。当初、講座定員に空きがなく苦勞しましたが、次第に入れ替わりました。新しいスタッフには各自が選択したテーマで研究してもらうことができました。24年間、恵まれた環境で研究できたことに深く感謝しています。

本学の益々の発展と皆様のご多幸を祈念しつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。

関西医科大学での24年間を振り返って

医化学講座前教授 伊藤 誠二



平成6年4月に医化学講座教授として着任し、24年間、研究マインドを涵養する医学教育と痛みの研究に取り組みました。医学教育では、日進月歩で進歩する医学・医療における毎年のトピックスを医

化学演習の課題としてとりあげ、医学生とマンツーマンで対峙して一人ひとりの課題の探究の成果をレポートにして毎年1冊、合計24冊の冊子にまとめることができました。研究では痛みの発生維持機構の解明に取り組み、平成29年3月に講談社からブルーバックス『痛覚のふしぎ』を上梓しました。また、着任して3年目から学生部長補佐、教務部長、ブレインメディカルリサーチセンター長、病態分子イメージングセンター長、平成19年からは副学長の要職に任命され、大学の教育・研究に参加させていただきました。さらに、平成19年から法人理

事の情報担当として附属3病院の電子カルテの更新、広報担当としてこの広報の創刊・発行や大学・附属3病院のホームページの統一化にも関与させていただきました。

思い起こせば50年近く前、京阪電車の特急で大阪から京都に通学していました。帰路突然レールの音が変わる場所が守口を出たところにあり、ふと右手を向くと関西医科大学が目にとまりましたが、その約20年後にお世話になるとは夢想だにしていなかった。教育経験がない私が関西医科大学で充実した24年間を過ごさせていただき、無事定年退職を迎えることができましたことに感謝の念で一杯です。平成25年に枚方に新学舎が建設され、枚方キャンパス統合、平成30年に看護学部が開校し、関西医科大学はつねに進化し続けています。創立100周年に向け関西医科大学が益々発展することを祈念して、私の退任の挨拶とさせていただきます。

退任のご挨拶

衛生学講座前教授 藺田 精昭



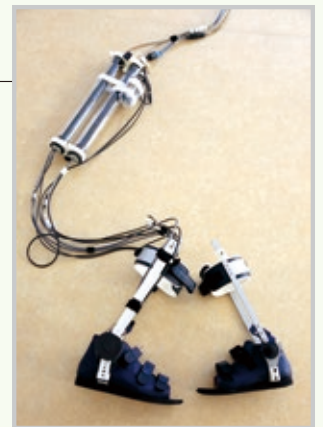
昭和50年に母校である京都府立医科大学を卒業してから、44年目を迎える今、長かった大学での教員生活に一旦区切りをつけることになりました。本学には、縁あ

って平成16年9月に関西医科大学衛生学講座に主任教授として赴任することになりました。振り返ってみると、長いようで短い、医者、医師、そして研究者としての人生であったと思います。ひたすら前を向いて走ってきたように思います。血液の不思議に触れ、造血幹細胞を純化したいという夢を見て、ここまで走ってきたようにも思います。32年間に及ぶ研究で、ようやくヒトの臍帯血

中に存在する造血幹細胞を手にすることが可能となったのは、やはり幸運としか言えないかも知れません。ここまで辿り着くことができたのは、長い人生で出会った多くの恩師、先輩、同僚、後輩に助けられたからに他なりません。私自身も精一杯に努力して、日々、切磋琢磨してきたが、今は、周りの方々にただ感謝する気持ちで一杯です。衛生学講座は、平成30年4月より、新たな講座に生まれ変わることになりました。そこで、幹細胞を応用した未来の細胞療法・再生医療の開発への扉が開かれようとしています。今後の発展を心より祈ると共に、私自身は、また新たな道を歩んでいきたいと切に願っています。

関医デイケアセンター・香里開設

4月より、香里病院に通所リハビリ施設「関医デイケアセンター・香里」が、病院向かいの一光ビル1階に開設されました。全国的にも珍しい、大学病院が運営するリハビリ特化型施設で、介護保険下でも質の高いリハビリテーションを提供できるように取り組みます。本学リハビリテーション医学講座で開発したりハビリテーションロボットやトレーニング機器を導入しており、運動機能や認知機能の改善を通して利用者の介護予防・自立支援を目指します。リハビリ科医師、理学療法士が常勤しているため、様々な疾患や症状にも対応しています。本学および地域の医療機関、介護事業所と連携を図りながら、地域医療に貢献できるように取り組みます。



空気圧人工筋による足関節ロボット



場 所：関西医科大学 香里病院 向かい（一光ビル1階）
送迎エリア：香里病院の3km圏内（エリア外でもご自身やご家族の送迎での通所も歓迎＜要相談＞）



種々のトレーニング機器を導入

平成30年4月看護学部・大学院看護学研究科開設

「人」、「生活」に着目した看護学教育を行い、医学部や病院看護部との緊密な連携のもと、附属医療機関などの医療リソースを最大限活用し、時代の要請に応えられる看護の実践者、すぐれた看護教育・研究のリーダーを育成します。

看護学部概要

開設時期	2018年（平成30年）4月
修業年限	4年
入学定員	100名／男女共学（収容定員：400名）
取得学位	学士（看護学）
取得資格 （いずれも国家試験受験資格）	看護師 保健師 助産師（選択制）※

※3年次2学期までの成績、学習意欲等を総合的に勘案し、10名が選択できます。



2月に竣工した看護学部棟外観

大学院看護学研究科概要

開設時期	2018年（平成30年）4月	
博士前期課程	標準修業年限	2年
	入学定員	20名
	取得学位	修士（看護学 Master of Science in Nursing）
博士後期課程	標準修業年限	3年
	入学定員	5名
	取得学位	博士（看護学 Doctor of Philosophy in Nursing）



統合看護研修室

看護学部・看護学研究科4分野

基盤看護分野	広域看護分野
<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎（理論・技術）看護学 ● 国際看護学 ● 看護学教育 <p>教授：片田範子 藤本悦子 杉本哲夫 近藤麻理 安酸史子 准教授：山下裕紀 太田祐子 講師：藤原史博 助教：神田知咲 山本容子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神看護学 ● 在宅看護学 ● 地域看護学 <p>教授：三木明子 准教授：李 錦純 講師：武ユカリ 廣野祥子 助教：的場 圭 山本大祐 森田理江 中原洋子 海原律子</p>
生涯発達看護分野	治療看護分野
<ul style="list-style-type: none"> ● こども看護学 ● 母性看護学 ● 老年看護学 <p>教授：加藤令子 酒井ひろ子 水野敏子 准教授：大橋 敦 講師：原 朱美 岩國亜紀子 金原京子 林みつる 助教：西川菜央 渡邊久美子 熊本妙子 川寄有紀</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 慢性疾患看護学 ● クリティカルケア看護学 <p>教授：林 優子 瀬戸奈津子 准教授：青木早苗 講師：谷水名美 大原千園 助教：小林寛子 山口真有美 村内千代</p>

看護学部教授紹介

平成30年4月開設の看護学部・大学院看護学研究科教授を紹介いたします



看護学部学部長・大学院看護学研究科研究科長 片田 範子 教授

専門分野 理論看護学、看護倫理学、小児看護学

平成30年4月、看護学部・大学院看護学研究科が開設されました。これからは本番です。学び舎も整備され、学生が学び始めることを待ってくださった方々も一杯いることを感じています。既にある土壌を大切にしながら、学びたいという思いが込みあがってくるような教育環境づくりをしたいと思っています。学生も教員も様々な環境からこの地に集います。多様性を尊重することが求められている昨今、まさにその実践が始まると思います。熱い思いと体力を維持することを忘れずに、出発します。学生は自分を知り、地域の人々を知るという実習から看護の学びを始めます。社会福祉協議会の皆様にご支援を頂きながら、地域に入っていきます。楽しく活動することがモットーですが、医療に関わる人の有り方を我々の行動を通して学生は学んでいくと気を引き締めます。今後とも、どうぞよろしく御願いたします。



加藤 令子 教授

専門分野 こども看護学

3年の年月を有し、看護学部・大学院看護学研究科が開設されました。設置準備室教授着任前の約1年間は、東京からほぼ月に1回の会議に出席し、これから展開する教育の基盤となる本学で育てたい学生像について何度も検討を重ねてきました。着任後の2年間は、その内容を具現化するためのカリキュラム作成、教員確保、施設との調整を行い、文科省等の認可を得ることが出来ました。開設を迎えられたのも、多くの方のご協力の賜物と感謝いたしております。今後は、さすが関西医科大学で学んだ学生と評価いただけるよう、未来を担う柔軟な発想とエビデンスに基づいた実践力をもつ看護専門職の教育に努めてまいります。



近藤 麻理 教授

専門分野 国際看護学

グローバル化社会に、柔軟に対応できる看護職の教育を考えています。国際看護学は、英語や語学を究めることが目的ではありません。看護の本質に国際的視点から立ち戻ることを目指すものです。看護の対象は「人間」です。その対象を理解すること、そしてグローバルな健康課題に多分野と協調し取り組むことが求められています。貧困と飢餓、紛争と難民、自然災害などに世界の看護職と連携して、フィールドを大切にしたい実践と研究を続けたいと思っています。



酒井 ひろ子 教授

専門分野 母性看護学

このたび、本学の看護学部ならびに大学院看護学研究科で母性看護学そして助産師教育に携わる事になりました。少子高齢化社会の加速と共に、女性の生き方、子育てに関する問題が多様化・複雑化する中で、家族が責任と喜びを分かち合い、次世代を産み育てていくことができる社会に向けて貢献できるよう、教育そして研究へと、より一層の努力を重ねてまいります。エビデンスに基づいた看護実践能力を身につけ、創造力豊かな人間愛にあふれた看護専門職の育成に貢献したいと考えております。ご指導お願い申し上げます。



杉本 哲夫 教授

専門分野 専門基礎分野（脳構築、機能、病態）

このたびご縁があって本学看護学部ならびに大学院看護学研究科で、研究、教育にさらに邁進できることになりました。私はこれまで大脳基底核を中心とする脳の構造機能研究を進めてまいりました。研究では意思の疎通や母性の発現と大脳基底核のつながりを辿ってみたいと考えています。教育では人間味に溢れた、しっかりと思考できる医療人を育成したいと願っています。当分医学部の授業や講座業務なども兼務し学舎を往来しています。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



瀬戸 奈津子 教授

専門分野 治療看護分野（慢性疾患看護学）

設置準備室で2年間認可申請に携わらせていただいた者として、経験したことのない格別な4月を迎えました。温かいご指導とご支援を賜りました看護部をはじめとする本学の皆様、挫けそうな都度前へと励まし合った準備室の同志に心より感謝申し上げます。これからは皆様に応えるべく附属医療機関と連携しながら、高度化複雑化した医療現場に対応できる看護専門職の育成に貢献したいと考えています。同時に、実践に根差した成果を少しでも多く還元できるよう、教育研究活動に邁進する所存です。



林 優子 教授

専門分野 治療看護分野（クリティカルケア看護学）

諸科学の進歩によって医療は高度化・複雑化し、さらに、社会の医療システムは、病院中心の医療から、地域社会に密着した医療・介護へと変化しました。看護職はヘルスプロモーションから看取りまで、様々な場において、あらゆる人々の健康や生活を支援する役割を担っています。看護学部・大学院看護学研究科の学生たちに、看護の重要性和素晴らしさ、Think Globally, Act Locally!の精神を伝えていきたいと思ひます。教職員の皆様方には、今後ともご指導の程よろしくお願ひいたします。



藤本 悦子 教授

専門分野 基盤看護学

私は薬学と看護学の両方を卒業しております。薬学部を卒業後、医学部解剖学講座で20年余り、研究と教育に勤んでまいりましたが、やがて看護学に引かれるようになり、とうとう自らが看護を学ぶ大学生となった次第です。卒業後、看護を見回してみると、もうちょっと解剖学の知識を活用すれば、さらにより看護を提供できるのになあと思うことがたくさん見えてきました。このような視野から、教育と研究を充実させたいと思っております。現在の主たる研究テーマは“リンパ浮腫ケアの開発”です。



三木 明子 教授

専門分野 精神保健看護学、産業精神保健学

健康を維持するためにメンタルヘルスが重要です。私の研究テーマは、看護師の職業性ストレスとメンタルヘルスです。近年、問題となっている職員同士のパワーハラスメントや、患者や家族から受ける暴力に対し、全国の保健医療福祉施設において、対応力向上のために職員教育を精力的に実践してきました。着任にあたり、学部・大学院教育に尽力することはもとより、枚方から精神保健看護学の実践研究の成果を発信し、社会貢献も行っていく所存です。



水野 敏子 教授

専門分野 老年看護学

生活を重視し、かつ臨床推論に基づいたスキルを学ぶ環境が整う本学で、学生と共に学ぶことができることに魅力を感じています。失敗を恐れず発言することを通して説明力が育つような、にぎやかな授業にしたいと思ひます。私は介護負担など高齢者の家族介護や認知症看護、エンド・オブ・ライフ・ケアなどの研究に取り組んでおります。特に独り暮らしが増加することから、独り暮らしのエンド・オブ・ライフ・ケア研究に取り組んでおります。



安酸 史子 教授

専門分野 臨床看護教育学

これまで看護学生の経験の教材化に焦点を当てた「経験型実習教育」、糖尿病患者へのセルフマネジメント支援、熟練看護師の技としての「看護の教育的関わりモデル」等について提唱してきました。患者学生、看護教師、看護師、患者と対象は異なっても、看護における教育方法論にこだわってきた私の経験を最大限活かし、ケアリングの理念に基づいた看護教育方法論を追求して、臨床看護教育学を確立していきたいと考えています。

（以上 五十音順）

関西医科大学創立90周年記念事業募金のご案内

創立90周年記念事業募金の第2期募集が始まりました。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

【募集要項】

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

なお、同窓会会員には牧野講堂(武道館)建設募金といたします。

2. 募集金額

1口10万円、申込口数1口以上。

多数口のご協力をお願い申し上げます。1口未満もありがたくお受けいたします。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印のうえ、返信用封筒にてお申し込みください。

寄付申込書は右記の3種類をご用意しておりますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書(個人用)

・法人の場合：受配者指定寄付金申込書

特定公益増進法人申込書(法人用)

4. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。

5. お問い合わせ先

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

なお、この募金の応募は任意です。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A)所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B)税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます

最大40%が減額されます

創立90周年記念事業募金として平成30年1月1日から平成30年3月31日までに寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成30年3月31日までの寄付金累計額は1億7,391万8,460円です。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	1月20日	第3回医療健康セミナー	
	2月10日	看護学部棟竣工式・竣工祝賀式典	
	2月17日	第4回医療健康セミナー	
	3月31日	第5回医療健康セミナー	
	4月1日	関医デイケアセンター・香里開設	
	4月2日	平成30年度入職式	
大学	1月15日	「医学研究における利益相反・安全保障輸出管理」講習会	
	2月2日・6日・28日	退任教授最終講義	
	2月17日	4学年共用試験OSCE	
	2月21日	マヒドン大学准教授来学	
	2月24日	四大学長・総長の集い	
	2月28日	業務改善コンテスト	
	3月2日	パーモント大学病理研修医来学	
	3月7日	平成29年度医学部卒業式	
	3月20日~27日	西日本医科学生総合体育冬季大会	
	3月27日	平成29年度3月大学院学位記授与式	
	3月27日	平成29年度医学会賞贈呈式	
	3月27日	平成29年度留学研究賞授与式	
	4月4日	平成30年度看護学部・大学院看護学研究科入学式	
	4月5日	平成30年度医学部入学式	
	病院	2月2日	
2月3日		北河内がんネットワーク協議会がん広報部会市民公開講座	
附属病院	1月9日	虐待予防研修会	
	1月20日	市民公開講座	
	2月3日	ロボット支援手術センターキックオフミーティング	
	2月17日	アレルギーセンター市民公開講座	
	2月25日	整形外科市民公開講座	
	2月26日	私大協相互ラウンド	
	3月2日	循環器救急フォーラム	
	3月17日	訪問看護師向け研修会	
	3月22日	業務改善コンテスト	
総合医療センター	1月20日	市民公開講座	
	2月17日	近畿地方ブロックDMAT訓練(災害訓練)	
	3月9日	業務改善コンテスト	
香里病院	3月17日	よくわかる肝臓病セミナー	
附属看護専門学校	3月1日	業務改善コンテスト	
	3月1日	平成29年度卒業式	
卒後臨床研修センター	4月3日	平成30年度入学式	
	3月28日	平成29年度臨床研修修了式	
	4月2日~10日	平成30年度初期臨床研修医入職式・オリエンテーション	

看護学部棟竣工式

西医体冬季大会

第5回医療健康セミナー

「医学研究における利益相反・安全保障輸出管理」講習会

私大協相互ラウンド

平成29年度医学部卒業式



卒業生に学位記を授与する友田学長

3月7日(水)午後1時から枚方学舎加多乃講堂において、「第64回医学部卒業式」が執り行われました。式冒頭、今年卒業を迎えた119名の卒業生が保護者や来賓、教職員のあたたかい拍手に迎えられて入場。学歌「のぞみ」斉唱の後、友田幸一学長から学位記が直接手渡されました。また、卒業生たちは学位記を手に、友田学長の告辞を傾聴。卒業生総代の答辞では、社会人として、また医師として社会に出る覚悟と決意、そして教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への感謝の言葉が語られました。

卒業式告辞

学長 友田 幸一

梅が香に 追ひもどさるる 寒さかな(芭蕉)

春もすぐそこまで近づいてきた今日の良き日に、第64回関西医科大学卒業式を挙行できますこと、この上ない喜びです。

第86回生の卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席頂きましたご来賓の皆様にも心から御礼申し上げます。

本日、ここに119名の卒業生を送り出すことができずことは、私たちにとり、誠に大きな喜びです。

さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表

します。

この一年は、皆さんにとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思えます。後半の厳しい卒業試験などの苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでの努力と研鑽の成果を心から讃えます。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思えます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。「何か気になることがあれば、もう一度確認をすること。——最後に困るのは君ではなく、患者さんです」。そして「自分が患者になった時に、自分のような医師に診て

もらいたいのか？」を常に忘れないようにしてください。初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界は多くの難問を抱えています。例えば少子高齢化に伴う人口動態の変化があり、2025年の日本は超高齢社会に突入します。さらに予防医学の進歩、医療のICT化、人工知能の普及などによって医師過剰時代になると言われています。そうなると、高い技術と豊富な知識を持ち、患者さんの気持ちに寄り添えるコミュニケーション能力の高い、ヒューマニズムを持った医師が求められます。生涯にわたり手技・知識の習得を怠らず、患者さんと共に最良の医療を行っていく医師になってください。

卒後2年間の初期研修でプライマリーケアを学ぶことは、皆さんの医師としての将来を決定することになります。昨年スタートした新専門医制度では、症例数や内容、診療実績、論文発表などが義務化されています。そうなると大学病院のような症例数の多い基幹病院で研修せざるを得なくなってきました。本学ではさまざまな疾患を持った患者さんを診れるだけでなく、最新の医療を経験できる最適な場所です。初期研修修了後は、皆さんが育った本学で高度な専門臨床教育を受け、まず専門医になってください。そしてその後は大学病院でこそ実現可能な、臨床研究や大学院に入り、学位を取ることや留学することは極めて意義のあることです。

ここであらためて本学附属の病院を紹介しますと、この枚方の附属病院本院は大阪府下でトップにランキングされた病院で、経営能力においても高い評価を得た、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器を備え、最先端の診療体制が整い、今後の疾病の動向、変遷に対応した最新の医療が提供できる病院です。滝井の総合医療センターは、2年前にオープンした超近代的な病院で、チーム医療を大切にしています。例えばリエゾン精神医学で、身体疾患に伴うさまざまな心理的問題を各医療チームで連携をとる包括的な医療サービスを全国でも先駆けて実践しています。

香里病院は、地域中核病院としての役割を果たし、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、この春からデイケアセンターを開設し、より地域に根差した診療を

展開しています。

そして本年1月から関西医大くずは病院を開院しました。回復期リハを中心とした診療を展開します。

一方、この4月からは、待望の4年制の看護学部と大学院が開講します。こちらは専門的知識と高度な看護技術を持った看護師、助産師等の育成を目指すことで、将来は医学・看護の全般にわたって最強の大学に変身します。

大学院制度も昨年から一新し、医学研究倫理に基づくカリキュラムとコースの充実をはかり、「臨床系社会人コース」にも力を入れています。その他に、大学が費用を負担して、意欲的な若手・中堅医師を世界のトップレベルの施設に臨床留学させる「スーパードクター制度」など、本学特有の制度が多々あります。ぜひこれらを活用し、志を高く持って科学に根差した診療、臨床を実行して欲しいと思います。その他女性医師のための「短時間労働正職員制度」や保育所の設備拡充を行っています。本学は今年創立90周年を迎えました。それを記念して総合医療センターホスピタルガーデングランドオープン、看護学部棟、武道館を備えた牧野講堂と弓道場が完成します。さらに国際交流センターとホスピタルインの機能を備えたタワー棟の建設や最先端医学研究所の設置等を計画し、さらに進化を続けてまいります。

私は学長就任以来、本学の国際化、グローバル化を目指し、世界ランキングに入る大学にしたいと考えてきました。2018年のTHE世界大学ランキングで801-1,000番に、またアジアの大学では201~250番にランクインしました。より質の高い医学・医療の提供、研究力の向上、グローバルリーダーの人材育成、国際認証の受審、海外医療支援活動の充実などを推進していきたいと考えています。またその成果を“関西医大ブランド”として医療界、産業界、一般社会に、さらに世界に発信していきたいと考えています。それらの実現には、皆さんの若い力とエネルギーが必要です。母校の更なる発展を願い、皆さんと共に頑張りたいと思います。

最後に今一度、皆さんは「慈仁心鏡」の精神を忘れず、それぞれのプロフェッショナルの道を究めてくれることを信じて学長告辞とします。本日は誠にありがとうございます。

平成30年度大学関係役員

4月1日から、平成30年度の大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田 幸一	学生部長	福永 幹彦	総合研究施設長	赤根 敦
副学長	松田 公志	学生部副部長	中村 加枝	実験動物飼育共同施設長	平野 伸二
副学長・医学部教務部長	野村 昌作	〃	中川 淳	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
副学長	木梨 達雄	大学院医学研究科教務部長	藤澤 順一	入試センター長	中川 淳
医学部教務部副部長	赤根 敦	大学院医学研究科教務部副部長	葛 幸治	医学教育センター長	西屋 克己
〃	北脇 知己	附属図書館長	高橋 寛二	国際交流センター長	鈴鹿 有子
		附属生命医学研究所長	木梨 達雄	学医	塩島 一朗

※看護学部・大学院看護学研究科関係役員については別途お知らせいたします。

平成30年度医学部クラスアドバイザー

平成30年度のクラスアドバイザーが次の通り決定しました。

1年	北脇 知己 教授 (数学)	4年	西山 利正 教授 (衛生・公衆衛生学)
2年	平野 伸二 教授 (生物学)	5年	岩井 大 教授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
3年	赤根 敦 教授 (法医学)	6年	浅井 昭雄 教授 (脳神経外科学)

※看護学部クラスアドバイザーについては別途お知らせいたします。

慈仁会定期総会を開催

4月5日(木)午後2時40分から枚方学舎加多乃講堂において「平成30年度慈仁会定期総会」が開催されました。冒頭で友田幸一学長が挨拶。その後、議案(1)平成29年度事業報告及び収支決算(2)平成30年度事業計画及び収支予算案(3)役員改選がいずれも承認されました。なお、本年度の慈仁会主要役員は以下の方々です。

平成30年度慈仁会主要役員

委員 長	西川 陸彦	監 事	田鍋 貴子
会計委員	重山 文子	〃	羽原 弘造

講座再編・新規講座・研究部門設置について

●医学部講座の再編について

4月1日付で、「生理学第一講座」「生理学第二講座」が「生理学講座」へ、「衛生学講座」「公衆衛生学講座」が「衛生・公衆衛生学講座」へ、それぞれ再編されました。

●医学部講座の新設について

4月1日付で、医学部に「iPS・幹細胞再生医学講座」および「iPS・幹細胞応用医学講座」を設置しました。これにより、今後ますます臨床応用が期待される再生医療分野において、研究のみならず研究者の育成・教育、臨床現場での利用を進めていきます。

●附属生命医学研究所 研究部門の新設について

4月1日付で、附属生命医学研究所に「ゲノム解析部門」「ゲノム編集部門」「細胞機能部門」を設置しました。

平成30年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(木)	入学式
4/6(金)・4/10(火)	新入生オリエンテーション
4/9(月)	新入生健康診断
4/12(木)・13(金)	合宿研修
4/16(月)	情報処理関係オリエンテーション
4/17(火)	1学期開講
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
6/30(土)	創立記念日
7/17(火)～7/24(火)	試験期間
7/24(火)	1学期終講
7/25(水)～8/25(土)	夏季休業 (期間内に臨床実習入門P1a)
8/27(月)	2学期開講
8/27(月)～8/31(金)	試験期間
11/2(金)～11/4(日)	大学祭
11/26(月)～11/30(金)	臨床実習入門P1b
12/12(水)	2学期終講
12/13(木)～1/3(木)	冬季休業
1/4(金)	3学期開講
1/4(金)～1/8(火)	試験期間
1/30(水)～3/1(金)	試験期間
2/12(火)	総合試験
2/22(金)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

2学年	
3/30(金)	新2学年ガイダンス
4/6(金)	1学期開講
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
5/15(火)	解剖体追悼法要
5/18(金)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/17(火)～7/20(金)	試験期間
7/20(金)	1学期終講
7/23(月)～8/25(土)	夏季休業
8/27(月)	2学期開講
11/2(金)～11/4(日)	大学祭
12/7(金)～12/19(水)	試験期間
12/19(水)	2学期終講
12/20(木)～1/3(木)	冬季休業
1/4(金)	3学期開講
1/28(月)～2/25(月)	試験期間
2/25(月)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

3学年	
3/29(木)	新3学年ガイダンス
4/6(金)	1学期開講
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
5/15(火)	解剖体追悼法要
5/17(木)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/11(水)～7/20(金)	試験期間
7/20(金)	1学期終講
7/23(月)～8/18(土)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
11/2(金)～11/4(日)	大学祭
12/10(月)～12/14(金)	試験期間
12/14(金)	2学期終講
12/17(月)～1/3(木)	冬季休業
1/4(金)	3学期開講
1/21(月)～2/15(金)	配属実習
3/1(金)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

4学年	
4/2(月)	新4学年ガイダンス
4/6(金)	1学期開講
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
5/16(水)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/17(火)～7/20(金)	試験期間
7/20(金)	1学期終講
7/23(月)～8/18(土)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講

11/2(金)～11/4(日)	大学祭
12/13(木)～12/18(火)	試験期間
12/18(火)	2学期終講
12/19(水)～1/3(木)	冬季休業
1/4(金)	3学期開講
1/4(金)～1/5(土)	試験期間
1/9(水)	共用試験CBT
2/16(土)	共用試験OSCE
2/18(月)～2/22(金)	プレクリニカル・クラークシップ
2/28(木)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

5学年	
4/6(金)	新5学年Student Doctor認証式・ガイダンス
4/9(月)	1学期開講
4/9(月)～3/8(金)	臨床実習
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
5/17(木)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/27(金)	1学期終講
7/30(月)～8/18(土)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
8/24(金)	CC中間検討会
9/1(土)	中間試験
12/21(金)	2学期終講
12/25(火)～1/5(土)	冬季休業
1/7(月)	3学期開講
1/7(月)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/6(水)	卒業式
3/8(金)	3学期終講

6学年	
3/30(金)	新6学年ガイダンス
4/2(月)	1学期開講
4/2(月)～6/29(金)	臨床実習
4/30(月)～5/5(土)	休講 (5月連休)
5/16(水)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/21(土)	PostCC-OSCE
7/21(土)	1学期終講
7/23(月)～8/25(土)	夏季休業
8/27(月)	2学期開講
8/27(月)	卒業試験①
8/30(木)～11/2(金)	まとめの講義
10/22(月)～10/25(木)	卒業試験②(4日間の内で2日(予備含む))
11/15(木)・11/16(金)	卒業試験③
11/20(火)	2学期終講
11/21(水)	冬季休業開始 (以降自習期間)
12/27(木)	第2回卒業判定用試験
3/6(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

平成30年度 看護学部教務関係日程表

1学年	
4/4(水)	入学式
4/5(木)～4/11(水)	新入生オリエンテーション
4/10(火)	健康診断
4/12(木)・13(金)	新入生合宿研修
4/16(月)	1学期開講
6/30(土)	創立記念日
7/2(月)～7/7(土)	試験期間
7/7(土)	1学期終講
7/9(月)～8/24(金)	夏季休業
8/27(月)	2学期開講
11/2(金)～11/4(日)	大学祭
11/19(月)～11/22(木)	試験期間
11/22(木)	2学期終講
12/3(月)	3学期開講
12/25(火)～1/5(土)	冬季休業
2/25(月)～3/2(土)	試験期間
3/2(土)	3学期終講

タイムズ・ハイアー・エデュケーション アジアTOP250大学に本学がランクイン

英教育誌『Times Higher Education』が2月6日に発表した「The Times Higher Education Asia University Rankings 2018」において、本学が201位～250位にランクインしました。

本ランキングは毎年発表されている「The Times Higher Education World University Rankings」のアジア版で、学生1人あたりの教員数や論文の影響力、国際化の度合いなど13の指標をもとに作成されるもの。本学は日本の大学の中では32位、西日本の私立大学(医学部)の中では近畿大学と同じく1位となりました。

なお、大学毎に教員一人あたりの学生数を比較して作成したランキング(世界版)では、世界第3位にランクインしています。

第17回関西医科大学医学会賞

平成29年12月2日(土)枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、第17回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。第17回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名をご紹介します。なおこの3名には3月27日(火)午後4時から枚方学舎4階中会議室で行われた医学会賞贈呈式にて、賞が授与されました。

医学会賞(優秀賞)

外科学講座 中竹 利知 助教

■ 演 題 「ラット敗血症モデルに対する誘導型一酸化窒素合成酵素(iNOS) mRNAをターゲットとした新規核酸医薬(センスオリゴヌクレオチド)の開発研究」

関西医科大学医学会賞優秀賞を受賞させていただき、身に余る光栄に心から感謝しております。私は2012年に本学大学院に進学し、表題の臓器保護効果などの研究に取り組みました。肝臓では、炎症時に誘導型一酸化窒素合成酵素(iNOS)遺伝子の発現誘導を介して、一酸化窒素(NO)の合成が促進されます。過剰産生されたNOは肝障害の一因子と考えられ、iNOS誘導の抑制が肝障害の軽減に重要です。本研究では、肝障害敗血症ラットモデルにおけるiNOS mRNAと同じ配列の短いDNA:センスオリゴヌクレオチド(iNOS-センスオリゴ)の効果を検討した結果、センスオリゴはiNOSやTNF- α 誘導を抑制し、肝病理所見を改善することで肝保護効果を示しました。今後、敗血症に対する新規治療法として有効と思われる“オリゴヌクレオチド”療法の開発を継続し、前臨床実験における有効性を確立するとともに臨床への応用を目指したいと考えています。ご指導ならびにご支援いただいた外科学講座:奥村忠芳先生ならびに肝臓班の先生方、立命館大学:西澤幹雄先生、武庫川女子大学:義澤克彦先生に深く御礼申し上げます。



医学会賞(奨励賞)

内科学第三講座 光山 俊行 助教

■ 演 題 「Comparison of neutrophil infiltration between type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis (自己免疫性膵炎1型と2型の好中球浸潤の比較)」

この度、関西医科大学医学会賞奨励賞を授与いただき大変光栄に存じます。私は平成23年に大学院に入学いたしました。研究内容としては自己免疫性膵炎1型と2型の免疫学的相違について検討し、2型で小葉間膵管周囲に好中球が多数浸潤していることは、膵管上皮からケモカインの1つであるGCP-2の分泌の影響が大きいことが明らかとなりました。初めての研究に困惑・戸惑いを感じながらも始まった大学院は、指導医の先生に恵まれ、先輩、同僚に支えられながら基礎研究の大切さを日々痛感し、また充実した日々を送ることができました。今では臨床に繋がる基礎医学、免疫学を学べたことは私にとって大きな財産です。最後にこの場をお借りして岡崎和一教授をはじめとする内科学第三講座の皆様深く御礼申し上げます。



医学会賞(奨励賞)

形成外科学講座 原 朋也 研究医員

■ 演 題 「Effect of aging on the osteoinductive activity of recombinant human bonemorphogenetic protein-2 in rats (ヒト組換え骨形成タンパク2によるラット骨誘導能への加齢の影響)」

この度、関西医科大学医学会賞奨励賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。私は、大阪歯科大学を卒業し平成24年に関西医科大学大学院に入学いたしました。右も左も分からない中、形成外科学講座の先生方の温かいご支援の中、動物実験、細胞培養、分子生物学の手技を学び、また形成外科の臨床を見学させて頂きました。その中で大学院で初めて行った研究が今回受賞させて頂いた研究です。加齢によりrhBMP-2の異所性骨形成能がどのような影響を与えるかについて研究を行いました。これにより骨再生における加齢の影響を明らかにしました。この研究で研究のいろはを学び、その後の研究を円滑に進めていくことが出来ました。このことは私にとって大きな財産です。最後に、この場をお借りして楠本健司教授をはじめとする形成外科学講座の皆様深く御礼申し上げます。



若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。

※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方にインタビューする連載企画です。

加齢黄斑変性の治療法研究で、患者さんの負担を減らす独自の治療法を開発

—先生の研究テーマについて教えてください。

「滲出型加齢黄斑変性に対する薬物療法に関する臨床研究を行っています。滲出型加齢黄斑変性とは、加齢により網膜の中心部・黄斑に異常な血管が生じ、見ようとするところが見えにくくなる病気で、失明原因の第4位です。治療は異常血管の発生に主に関与するVEGF（血管内皮増殖因子）の働きを抑えるため、抗VEGF薬を眼内に注射しますが、完全に治すことは難しく、継続した治療が必要です。この研究によって、従来の治療法と比較して、より少ない投与回数で同等の効果を上げることができ、患者さんの負担を減らすことに成功しました。

—研究の道に進んだきっかけと今後の展望を教えてください。

同じ病気を持つ患者さんでも治療への反応性は人によって異なります。そこに「なぜ」と思ったことが、研究に携わるきっかけでした。加齢黄斑変性は、現在も原因となる因子が全て解明されてはいません。どのような患者さんにどのような治療の効果があつたか検証を積み重ね、最適な治療法を解明し、いずれはそれぞれの患者さんに合わせた個別化医療を実現したいと考えています。そのために患者さんのデメリットをできるだけ減らしメリットを増やすべく努めています。

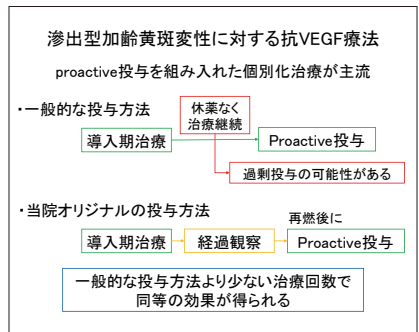
—後輩にメッセージを。

研究だけでなく、臨床現場でも、その患者さんを本当に治すためにはどうしたらよいかを考え、常に一步踏み込んで「なぜ」と問う視点、研究マインドを持つことが大切だと思います。



眼科学講座
大中 誠之 講師

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2015年 井街賞(眼科同窓会)
- ・2015年 加多乃賞(関西医科大学同窓会)
- ・2016年 宇山賞(眼科同窓会)
- ・2016年 科研費 若手研究(B)



新しい事に取り組むワクワク感を忘れずに

—先生の研究テーマ、関西医大にきたきっかけを教えてください。

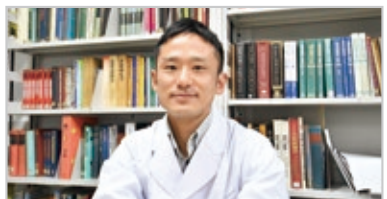
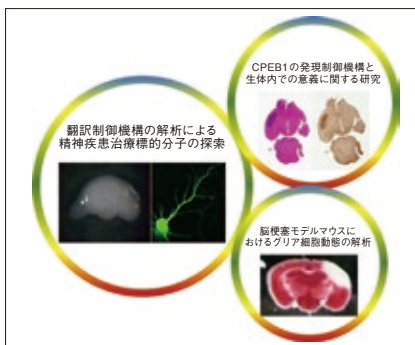
RNA結合タンパク質CPEB1による標的RNAの転写後発現制御機構の解析を中心に、様々な実験モデル(精神疾患モデル、てんかんモデル、神経腫瘍モデル、脳梗塞モデル)を用いて細胞レベル・組織レベルでの研究を行っています。実験動物などの個体もちいて、細胞レベルから組織レベルへの研究に展開していきたいと考えていた頃に、組織学の大家である山田教授のもとで研究を行いたいと思い、関西医大にきました。

—研究医養成コースがきっかけで取り組み始めた研究とは

脳梗塞モデルには様々な作製法がありますが、当講座ではCB17マウスを用いて中大脳動脈を焼灼・切断し永久梗塞巣を形成する方法を実施

しています。安定した梗塞巣の作製が脳梗塞モデル研究における課題とされていますが、その点を克服した再現性の高い実験モデルです。

現在では、特に梗塞巣周囲に出現する活性化したグリア細胞に着目しその動態解析を行っています。さらに梗塞巣で脳内コレステロール代謝産物の合成が亢進するという新規知見を見出し、その分子メカニズムの解明を行っています。



解剖学第一講座
大江 総一 助教

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2011年 自治医科大学奨励賞
- ・2012年 自治医科大学最優秀教員賞
- ・2014年 自治医大シンポジウム優秀ポスター賞
- ・2015年 第33回平成27年度「加多乃賞」
- ・2016年 第9回平成28年度「丹家雛子賞」
- ・2015年 日本学術振興会 科学研究費 若手研究(B)
- ・2018年 日本学術振興会 科学研究費 若手研究

—後輩研究者にメッセージを。

自分自身まだまだ研鑽を積む修行の半ばにいます。研究者同士で刺激を与えあって心躍る研究を展開し、その先にある未知なる真実に手を伸ばしましょう。

県人会・高校同窓会を開催

本学では、学生同士、また学生と教員との交流促進のため、同一地域の出身者を対象に県人会を、また同一高等学校等の出身者を対象に高校同窓会の立ち上げを支援しています。

各団体の活動は会の自主的な運営に任せられており、その内容も様々ですが、新入生歓迎会や卒業生送別会などの親睦を深めるイベントが開催されています。

本学は今後も、学生間、教職員間の一層の交流を深めるため、県人会や高校同窓会活動を大学全体で支援していきます。既存同窓会の照会や開催予定、開催実績がある場合は、卒後臨床研修センターまでご連絡ください。

平成29年10月～平成30年3月までに開催された主な県人会・高校同窓会 ※判明分のみ

10月25日(水)	豊中高校出身者同窓会	11月13日(月)	山口県人会
11月28日(火)	高知県人会	12月8日(金)	岡山県人会
12月13日(水)	三重県人会	1月18日(木)	滋賀県人会
2月6日(火)	高槻高校出身者同窓会	2月9日(金)	大阪清風南海高校出身者同窓会
2月14日(水)	金蘭千里高校出身者同窓会	3月5日(月)	北海道人会
3月9日(金)	大阪星光学院高校出身者同窓会		



三重県人会の様子

平成30年度入学試験結果

平成30年度入学試験結果は以下の通りです。

平成30年度医学部入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
推薦入学試験	平成29年11月26日(日)	44	10	10
センター試験利用入学試験	二次:2月12日(月・休)	897	26	6
一般入学試験(前期)	一次:1月27日(土)	1,958	148	99
	二次:2月12日(月・休)			
一般入学試験(後期)	一次:3月3日(土)	585	7	7
	二次:3月13日(火)			

平成30年度看護学部入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
一般入学試験	1月26日(金)	474	132	100

平成30年度大学院医学研究科入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
前期試験	平成29年9月2日(土)	11	10	10
後期試験	2月3日(土)	21	21	20

平成30年度大学院看護学研究科入学試験結果

	日 程	志願者		合格者		入学者	
		博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
一次募集	平成29年11月18日(土)	8	6	7	4	7	4
二次募集	2月18日(日)	5	5	5	3	5	3

第112回医師国家試験結果

3月19日(月)第112回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者119名のうち111名が合格し、合格率は93.3%、新卒および既卒を合わせた本学の受験者140名のうち128名が合格し、合格率は91.4%でした。

今後も学生全員の合格に向け、サポート体制を強化する予定です。

大学院学位記授与式

3月27日(火)午後3時30分から枚方学舎4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ伊藤誠二副学長(研究担当)、中邨智之大学院教務部長や指導教員らが列席し、「平成29年度3月学位記授与式」が挙行され、課程博士11名、論文博士8名に、友田学長から博士(医学)学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労い、「医学博士としての責任をもって、研究心を生かし医学の発展に力を貸してほしい」と、激励の言葉が贈られました。



博士(医学)の学位記を手に写真に納まる修了生ら

グラスゴー大学と国際交流協定締結

平成30年1月、本学とグラスゴー大学(イギリス)は新たに国際交流協定を締結しました。

グラスゴー大学はイギリス・スコットランドのグラスゴー市に本部を置き、1451年に創立された英語圏で最も古い大学の一つです。

友田幸一学長らが一昨年7月中旬グラスゴー大学を訪問し、協定締結に向けて交渉と現地視察を実施。その後調整を経て、本年1月正式な協定締結に至りました。

今後は両大学の医学教育発展、教員の能力開発、研究の進展を目的に、グラスゴー大学からの研究者、留学生の受け入れや本学からの教職員、臨床実習生の派遣など、諸方面で協力体制を構築する予定です。なお、本学の国際交流協定締結機関はグラスゴー大学を含めて6大学となりました。



協定書

バーモント大学病理研修医来学

3月2日(金)、本学と国際交流協定を結ぶバーモント大学(アメリカ)から病理研修医 Britni Bryant 氏が来学しました。3月5日(月)の友田幸一学長、国際交流センター鈴鹿有子センター長との面会では、関心のある病理学分野や、双方の大学の研究施設、滞在中のスケジュールなどについての話に花が咲きました。

滞在中は、附属病院や総合医療センターなどを見学した他、附属病院病理部で症例報告に参加したり、医学生と症例に関する討議を行ったりしました。



Bryant氏(中央)を囲んで撮影

マヒドン大学准教授来学

2月21日(水)、マヒドン大学(タイ)、Suchin Worawichawong准教授(Assistant Professor)が来学しました。本学とマヒドン大学とは学術交流協定の締結を視野に入れており、今年度、本学衛生・公衆衛生学講座が担当する、「社会医学実習」のカリキュラムの一環として学生2名が2週間、同大学に留学することが決定しています。

同日午後2時から、友田幸一学長、国際交流センター鈴鹿有子センター長と面談し、双方の施設やカリキュラムについて情報を交換。また、友田学長、鈴鹿センター長がマヒドン大学を訪れた際のエピソードなどにも話が及びました。



面談時の記念撮影

平成29年度留学研究賞

3月27日(火)午後4時30分から枚方学舎4階中会議室において「平成29年度関西医科大学留学研究賞授与式」(主催：国際交流センター)が行われました。この賞は、本学の留学生在が本学滞在中に執筆した学位論文に対して与えられるもの。平成29年度は、ベトナムから来学したCao Thi Thu Haさん(本学大学院医学研究科医科学専攻健康科学)、同じくベトナムから来学のNguyen Thi Hong Chuyenさん(同専攻皮膚科学)、インドから来学したAndharia Naazさん(同専攻細胞分子生理学)、ベトナムから来学したPham Ming Vuongさん(先端医療学専攻疼痛医科学)、Nguyen Thanh Huanさん(医科学専攻循環器・腎・内分泌代謝内科学)の5名が受賞し、

友田幸一学長から賞状と記念品が授与されました。



受賞者(後列)の記念撮影

小児科学講座の経口免疫療法に関する論文が英国科学誌『Scientific Reports』に掲載

小児科学講座高橋雅也助教(主任教授・金子一成)らの研究チームは、小児の食物アレルギー治療法として近年増えつつある経口免疫療法において、重症気管支喘息の治療薬として保険適応を受けているオマリズマブを併用することで、重篤なアレルギー症状・アナフィラキシーショックが予防できることを実証しました。

平成24年に本学で実施した臨床研究全4例において、アナフィラキシーショックを発生させずにアレルギーを寛解させることに成功。今回はその安全性をさらに証明するため、より大規模なランダム化比較試験を実施し、その全例で治療開始32週目の脱感作(アレルギー症状を起こさない状態)に至りました。また、研究結果をまとめた論文が英国科学誌「Scientific Reports」に、平成29年12月12日(火)午前10時付(※日本時間同日午後7時)で掲載されました。

◆高橋助教コメント

近年、食物アレルギー患者に対する新たな治療法として『食べて治す』経口免疫療法が注目を集めています。しかし、この治療の大きな問題点として、治療中のアレルギー症状があり、時にはアナフィラキシーショックを呈することもあります。今回、私たちの論文ではヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体であるゾレア(オマリズマブ)を用いることで治療中のアレルギー症状の発生を抑え、より安全に経口免疫療法を行うことが可能であることを示しました。本研究を行うにあたり、金子教授を始め多くの小児科の先生方の御助力の賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

生理学第一講座松田教授、医化学講座伊藤教授、衛生学講座藺田教授最終講義

平成29年度に3講座の教授3名が定年を迎え、2月2日(金)午後3時40分から医化学講座伊藤誠二教授が、同6日(火)午後2時15分から生理学第一講座松田博子教授が、同28日(水)午後3時45分から衛生学講座藺田精昭教授が、それぞれ最終講義を開講しました。

各講義には学生だけでなく山下敏夫理事長や友田幸一学長、そして講座所属の教職員ら、縁の深い関係者が多数出席。山下理事長と友田学長から感謝と労いの言葉が贈られた後、伊藤教授は「医学の進歩とともに歩んだ40年 関西医科大学とともに歩んだ24年」を、松田教授は「パッチクランプ法によるイオンチャネルの解析」を、藺田教授は「ヒト造血幹細胞の研究 —32年間のあゆみ」をテーマに、過去の業績や思い出を振り返りながら最後の講義を行いました。

また、講義の最後には花束や記念品の贈呈、出席者全員での記念撮影も行い、節目の日を迎えた3人の教授はそれぞれの感慨を胸に、晴れやかな表情で新たな旅立ちを迎えていました。



出席者と記念写真に収まる松田教授(前列右から4人目)



出席者と記念写真に収まる伊藤教授(前列右から5人目)



出席者と記念写真に収まる藺田教授(前列右から3人目)

「四大学長・総長の集い」第4回大阪対がん協会セミナー

2月24日(土)午後2時から、大阪科学技術センター大ホール(大阪市西区)において、第4回大阪対がん協会セミナー「四大学長・総長の集い」が開催され、市民ら約250名が参加しました。

今回は「がん医療、これからの展望」をメインテーマに大阪府立病院機構遠山正彌理事長が総司会を務め、「がん診療と私」として近畿大学塩崎均学長が、「健康寿命を延ばして『ぴんぴんころり』」として大阪市立大学荒川哲男理事長兼学長が、「頭頸部がんの医療と展望」として本学友田幸一学長が、「がん医療の変貌—がん診療拠点病院に必要なこと」として大阪国際がんセンター松浦成昭総長がそれぞれ講演。演者は満席となった聴衆

に向けて時にユーモアを交えながら、がん治療について自身の経験や最新の治療についてわかりやすく解説しました。



講演する友田学長

本学医学部学生が「ひらかた魅力発信コンテスト2017」入選

本学4学年の濱田諒さんが「ひらかた魅力発信コンテスト2017」で2位に入選しました。これは、本学も参加する学園都市ひらかた推進協議会が主催して、“学生から見た枚方市の魅力”をテーマに風景などの写真を募集したコンテスト。全応募作品19点の中から、枚方市長を含む協議会委員の採点を経て得点数上位の作品が入選作品として選ばれました。

◆濱田さんコメント

枚方市役所から私が部長をしている写真部の方に今回のコンテストの応募依頼がありまして応募しました。昨年も先輩方が入選していましたので、私も入選したいと思い何か良い写真になりそうな風景を探していたところ自室からの景色が美しかったので撮影、編集し応募しました。もっと良い写真が撮れるようにこれからも努力していきたいと思います。

※学年は当時



入選作品 「夏の日暮れ」 濱田諒さん撮影

西日本医科学生総合体育冬季大会でスキー部が活躍

3月20日(火)から27日(火)にかけて、菅平高原パインビークススキー場(長野県上田市)において第70回西日本医科学生総合体育大会冬季大会が開催され、本学体育会競技スキー部(顧問:整形外科学講座菅俊光准教授)が主管校を務めました。スキー部OB・OGの卒業生が大会ドクターとして協力し、大会は大きな事故もなく無事に終了。本学スキー部は女子総合で準優勝を飾った他、個人種目でも優秀な成績を収めるなど、日頃の練習成果を発揮しました。

■本学競技スキー部成績

競技種目	成績	学生氏名(学年)
女子スラローム	3位	田中里奈(4学年)
女子新人戦	準優勝	平林 碧(1学年)
男子新人戦	準優勝	大森 拓(1学年)

◆競技スキー部主将 嶋田 和也さんコメント(本学医学部3学年)

今大会では本学にとって20年ぶりに主管校としての運営を務めさせていただきました。私自身、初めは運営を行いつつ選手として出場することはできないと思っていました。しかし今振り返ると部員全員が出場できた上に、女子総合準優勝という素晴らしい成績を残すことができました。これはOBOGの先生方の多大なるご協力と、部員全員に支えてもらえたことに他なりません。本当にありがとうございました。

※学年、肩書は当時



準優勝した女子チーム

病 院

病 院 北河内がんネットワーク協議会合同市民公開講座

2月3日(土)午後2時から市立ひらかた病院(枚方市)において「がんのことをもっと知ろう!」をテーマに、北河内医療圏(枚方市・寝屋川市・守口市・門真市・大東市・四條畷市・交野市)の地域がん診療連携拠点病院、大阪府がん診療拠点病院の6病院(市立ひらかた病院、JCHO星ヶ丘医療センター、パナソニック健康保険組合松下記念病院、社会医療法人美杉会佐藤病院、関西医科大学総合医療センター、関西医科大学附属病院)共催で、合同市民公開講座が開催されました。市立ひらかた病院熊谷晴子緩和ケア認定看護師が「緩和ケアってなに?」を、社会医療法人美杉会佐藤病院泌尿器科西村昌則部長が「前立腺がんについて」を、関西医科大学総合医療センターがん治療・緩和ケアセンター石井一慶センター長(血液腫瘍内科部長)が「決して珍しくはない～悪性リンパ腫～」を、それぞれ講演。市民ら150名が参加し、熱心に聴講しました。



講演する石井センター長

病 院 香里ヌヴェール学院中学校で出張授業を実施

2月2日(金)午後1時30分から、香里ヌヴェール学院中学校(寝屋川市)において大阪府のがん予防につながる学習活動の充実支援事業にもとづく出張授業が行われました。これは、大阪府が進める大阪府下の中学校を対象としたがん教育・啓発活動の一環。がん診療拠点病院でがん医療に従事する医師を講師として派遣し、中学生に対してがんに対する正しい知識や生活習慣病、たばこに対する知識の普及を行うための事業です。今回は放射線科学講座中村聡明准教授が教壇に立ち、中学生42名に「がんについて学ぶ」と題する授業を行いました。

出席した生徒は中村准教授が解説する、日本人のがん罹患率やがんが生じる仕組み、放射線を使った最新のがん

ん治療などの話に、熱心に聞き入っていました。



授業中、熱弁を振るう中村准教授

附属病院 第1回アレルギーセンター市民公開講座開催

2月17日(土)午後2時から附属病院13階講堂において、附属病院アレルギーセンター主催の市民公開講座が開催され、枚方市民他34名が参加しました。

附属病院アレルギーセンター金子一成センター長による挨拶の後、総合医療センターアレルギーセンター朝子幹也センター長(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が座長を務め、最初に「アトピー性皮膚炎を例に考える、ステロイド外用剤の使い方」と題して附属病院アレルギーセンター神戸直智准教授(皮膚科)が、次に「気管支喘息の診断とマネジメント」と題して同センター小林良樹講師(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、最後に「子どもの食物アレルギー」と題して同センター畑埜泰子助教(小児科)がそれぞれ講演しました。

アレルギーに関する3つの演題に、参加者はメモを取

ったりうなずいたりしながら耳を傾け、また質疑応答ではアレルギーに関する意味がわかりづらい単語や、自らが抱えるアレルギーの悩みなどに関する質問が投げかけられ、演者は丁寧に回答していました。



開会の挨拶を行う金子センター長

附属病院 “骨粗しょう症”をテーマに整形外科市民公開講座が開講

2月25日(日)午後1時から、附属病院13階講堂と合同カンファレンスルームにおいて、本学整形外科学講座が主催する初めての市民公開講座が開催され、市民ら114名が参加しました。この日は講演と骨密度測定・医師相談を2会場に分けて同時に実施し、講堂では午後1時から附属病院整形外科串田剛俊准教授が「健康寿命をのばす方法(骨を強くするには…)」をテーマに講演。続いて同院整形外科齋藤貴徳診療部長が登壇し、「元気で長生きできる秘訣教えます-骨粗しょう症治療の最前線-」と題して講演しました。

また、骨密度測定コーナーと医師相談コーナーでは、参加した市民らが自身の骨密度測定結果をもとに、骨・

関節に関する悩みを同院整形外科所属の医師に相談する姿が見られました。



駆けつけた参加者を前に、講演する齋藤診療部長

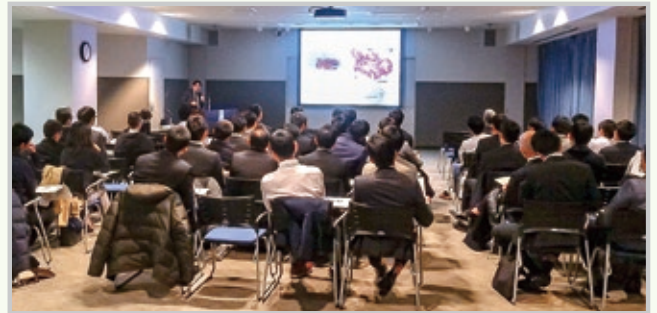
附属病院 附属病院循環器救急フォーラム開催

3月2日(金)午後6時から附属病院循環器内科・心臓血管外科主催の「循環器救急フォーラム」が附属病院13階講堂において開催され、枚方寝屋川消防組合をはじめ近隣の消防本部から約50名の救急隊員が参加しました。

附属病院循環器内科塩島一朗教授の開会挨拶の後、合田智彦研修医による症例発表があり、実際に救急隊員が搬送した事例の経過について説明されました。続いて「大動脈救急疾患の診断と治療」と題して同院血管外科善甫宣哉診療教授が講演し、大動脈瘤の分類・損傷・治療、大動脈解離の分類・症状・治療について解説しました。最後に同院心臓血管外科塩直樹教授による閉会挨拶でフォーラムは終了しました。

フォーラム終了後には医師と救急隊員との意見交換会も行われました。参加した救急隊員からは「症例発表は実際に自分たちが搬送した事例であり、その後の治療内

容など大変興味深かった。また、講演で大動脈救急疾患について大変わかりやすい解説をしていただき、理解がより深まった」等の感想が多数寄せられ、意見交換を通じて医師と救急隊員がともに地域医療に貢献していくことを確認しました。



善甫診療教授による講演

附属病院 ロボット支援手術センターキックオフミーティング

2月3日(土)午後3時から枚方学舎2階第4講義室において、昨年11月の本学附属病院ロボット支援手術センター開設を記念し、「ロボット支援手術センターキックオフミーティング」が開催されました。これは、平成30年度から新たに胃や子宮などでもロボット支援手術が保険適用となることを受け、ロボット支援手術の導入から現在を振り返り、今後の展望を描くために開催されたものです。

附属病院松田公志副病院長の開会挨拶の後、同院消化管外科濱田門診療教授が座長を務め、同院腎泌尿器外科杉素彦診療講師が「腎泌尿器外科におけるロボット支援手術の導入の実際と実績」を、同院消化管外科井上健太郎准教授が「ロボット支援腹腔鏡下胃切除術の導入計画と準備状況」を、同院婦人科内視鏡外科北正人診療教授が「腹腔鏡下広範子宮摘除術の現状とロボット支援手術

にむけての準備」を、同院看護部鈴木敦子看護師とMEセンター山口陸人主任が「ロボット支援手術における看護師とMEの役割と工夫」を、それぞれ講演。特別講演として鳥取大学医学部附属病院泌尿器科武中篤教授が「鳥取大学医学部附属病院低侵襲外科センター設立の経緯とその役割」を講演しました。



特別講演に登壇した鳥取大学武中教授

附属病院 腰痛と糖尿病に関する市民公開講座

1月20日(土)午後2時から附属病院13階講堂において、附属病院市民公開講座が開催されました。これまでの市民公開講座来場者アンケートで取り上げてほしいとの要望が多かった「腰痛」と「糖尿病」をテーマとした講演に、市民ら約120名が来場しました。

附属病院澤田敏病院長による挨拶の後、「お年寄りの腰痛の原因とその解決法—最新の小侵襲手術法を中心に—」をテーマに同院整形外科齋藤貴徳教授(整形外科学講座)が、腰の痛みにもどのような原因・治療があるのかについて様々な角度から講演しました。

続いて「もっと知ろう!糖尿病」をテーマに附属病院糖尿病科豊田長興診療教授(内科学第二講座)が、糖尿病の症状や合併症、食事・運動・薬物療法について食事例

を出す等しながら講演しました。

来場者からは「詳しく説明してくれてよかった」「手術の恐怖がやわらいだ」「炭水化物の大事さがわかった」などの感想が寄せられ、満足度の高い市民公開講座となったようでした。



講演を行う齋藤教授



附属病院 虐待予防研修会

1月9日(火)午後5時30分から附属病院13階講堂において、附属病院児童虐待等対策委員会主催による「虐待予防研修会」が開催されました。

児童虐待等対策委員会吉村健副委員長(小児科学講座講師)が「当院での児童虐待等対策委員会の取り組み・現状報告」を、附属病院地域医療連携部高木菜美MSWが「高齢者虐待対応マニュアル、障がい者虐待対応マニュアル、配偶者からの暴力対応マニュアルの紹介」を、それぞれ講演しました。

虐待については「児童虐待」「高齢者虐待」「障がい者虐待」「配偶者虐待」など分野ごとに解説され、「虐待」が細分化されていること、また虐待を発見した場合の対処方法やフローチャートについても説明がありました。参

加者は講演者の話にメモを取ったりうなずいたりしながら、真剣な面持ちで講演を聞いていました。



行政担当者(右奥)の話聞く参加者

総合医療センター 近畿地方ブロックDMAT訓練 (総合医療センター災害訓練)

2月17日(土)午前9時から、総合医療センター本館及び南館において、総合医療センター災害訓練を兼ねた近畿地方ブロックDMAT訓練が実施されました。本訓練は総合医療センター教職員約110名のほか、大阪府、近畿2府4県災害拠点病院、DMAT隊など多数が参加して行われました。

今回は、2月16日(金)午後11時に大阪府北部を震源地とするマグニチュード7.5、最大震度7の地震が発生し、院内災害対策本部を立ち上げ、発災2日目である2月17日(土)に災害医療活動を行うという想定で実施されました。

模擬傷病者が本館1階エントランスホールに設置されたトリアージポストに多数搬送。それぞれの重症度・緊急度により赤・黄・緑・黒ゾーンに振り分けられ、各所で治療が施されました。また、全体の統括は南館2階に

設置された院内災害対策本部で行われ、同3階に設置されたDMAT本部では各地から支援に入ったDMAT隊によって広域搬送などの支援が行われました。



本館エントランスホールに設置されたトリアージポスト

総合医療センター 生活習慣病をテーマに市民公開講座

1月20日(土)午後2時から守口文化センター・エナジーホール(守口市)において、第20回関西医科大学総合医療センター市民健康講座「生活習慣病を知ろう!～知って得する健康知識～」が開催されました。

総合医療センター放射線科診療部長宇都宮啓太教授が座長を務め、同消化器肝臓内科津田梨那子助教が「メタボと脂肪肝～放置すると肝がん～」、同循環器腎内分泌代謝内科診療部長山本克浩准教授が「放っておくと怖い生活習慣病～動脈硬化の予防について～」、同栄養管理部満森恵子管理栄養士が「今日から始める食生活～生活習慣病にならないために～」、同健康科学センター久保田真由美運動指導士が「健康寿命をのばすエクササイ

ズ～生活習慣病の予防に向けて～」をそれぞれ講演し、参加者約120人は熱心に聴き入りました。



講演する山本准教授

平成30年度附属看護専門学校入学式



式辞を述べる楠本学校長

4月3日(火)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において「平成30年度附属看護専門学校入学式」が執り行われました。楠本健司学校長が60名の新生へ向けて「発展的な閉校が決まっている附属看護専門学校で最後となる入学生として誇りと責任をもって充実した学生生活を過ごしてほしい」と式辞を述べた他、山下敏夫理事長、友田幸一学長、安田照美統括看護部長からそれぞれ、新生への祝辞が贈られました。

学校長式辞

学校長 楠本 健司

39期生60名(女子54名、男子6名)の皆さん、本日は入学おめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親・保護者の方をはじめ、ご家族、先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せまして、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、87年目を迎える歴史ある看護学校です。しかし、すでに新生の皆さんや保護者の皆様にもご了解いただいていますように3年後には本校は閉校になることが決まっています。つまり皆さん方が最後の入学生であり卒業生でもあります。本校では、定員が80名になった過去16年間の看護師国家試験の累積合格率は99%と極めて高く、先月卒業した先輩達も100%合格という成績を納め全国的に常にトップクラスの成績です。皆さん方全員で、是非これに続けてください。これまで4,536名という実に多くの正看護師を世に送り出し、附属の病院や国の内外で大いに活躍されています。新生の皆さんは、今日からこの伝統ある関西医科大学附属看護専門学校の最終学年の看護学生として誇りと責任を持って、是非とも充実した学生生活を過ごしていただきたいと願っています。

ここで皆さんがめざしている看護師の「看護」という文字を紐解いてみましょう。「看」はその字の形のとおり「目の上に手をかざして見る」ことを表しています。また「護」は言葉をかけて注意深く守ることを意味しています。まさに、看護師という仕事は広い視野を持ち、傷や病を負った人々を

見つめつつ、言葉をかけて支えていくという使命を担っていることを示しています。

皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間で戦場の女神として働きました。生物統計学者でもあった彼女は勤勉に、そして環境に対しても謙虚に、戦争のない世界の到来を願って病める人、傷ついた人のためにその生涯を捧げました。幸い現在わが国では戦争という状況は身近にはないものの、病院や一般社会では病気や外傷と戦っている多くの患者さんたちが居られ、病院にはこれを援助する医療人が居ます。今日からみなさん方一人ひとりが看護の立場で、患者さんに寄り添い支える医療人の一人になるという大きな自負を持って下さい。

さて、本校への入学に際して、今後学校生活をし、勉学を進める心得として、私から五つの「K」(“five K”)を皆さんにお贈りしたいと思います。一つ目は「勤勉」の“K”、二つ目は「謙虚」の“K”、三つ目は「国家試験」の“K”、四つ目は「健康」の“K”、そして五つ目が「希望」の“K”です。これからの三年間この<五つの“K”>を忘れることの無いように過ごして下さい。

皆さんは、これから牧野の地で勉学を始めます。牧野は関西医大の開学の地としてゆかりの地です。この緑豊かな校舎に、春には桜、続く新緑、秋には金木犀に囲まれる環境の中、歴史と伝統を感じ本当に心を落ち着けることができるとおもいます。このような素晴らしい環境にある学舎で、これからの三年間、健康に気をつけながら日々勉学に励んで下さい。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力でみなさん方を支えるべく心一つにしておりますことをお伝えして、私の式辞としたいと思います。

本日は本当におめでとうございます。

平成29年度附属看護専門学校卒業式



卒業証書を手渡す楠本学校長

3月1日(木)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、「平成29年度附属看護専門学校卒業式」が執り行われました。山下敏夫理事長や友田幸一学長、附属病院安田照美看護部長らが臨席するなか、67名の卒業生が、楠本健司学校長から医療専門課程専門士の称号を授けられました。学校長式辞、山下理事長祝辞、安田看護部長来賓祝辞、在校生の送辞では卒業生へのメッセージが贈られ、卒業生答辞では臨地実習での思い出などに触れつつ、卒業まで支えてくれた方々への感謝の言葉が述べられました。

学校長式辞

学校長 楠本 健司

本日ここに無事卒業の日を迎えられた平成29年度卒業生67名(女子65名、男子2名)の皆さんおめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで支えてこられたご家族・保護者の皆様に心よりお慶び申し上げます。また卒業生を、学業の側面から導いてくださった実習施設の関係者の皆様、並びにご多用の中、本日ここにご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学ですがその附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、86周年を迎え、過去4,467名もの正看護師を世に送り出してきた大変歴史ある看護専門学校です。さて、看護師としてのスタートを前に学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりのところを育んでこられました。一方、学生生活としても、球技大会、学校祭など多くのイベントを意欲的に企画し、多くの友人を得て、楽しい学生生活を送られたことと思います。また、実習や戴帽式、キャンドルサービス等の行事も体験しましたが、なかでも戴帽式ではナイチンゲール像から戴いたキャンドルの灯火は、皆さんが病院内をキャンドルを持って廻ることで患者さんたちの笑顔や拍手になりました。これはまさに「看護の心」と言えます。そして、今日の白衣はこれから看護師という職業人として歩み出す覚悟と誇りの象徴であることをあらためて自覚しましょう。学生時代には、勉学や実習などで自分の責任を全うすればよかったのですが、これからは社会人として、倫理観と良識を身につけ、また医療人として深刻な病気や悩みを持つ患

者さんや、そのご家族に対する責任を担うことを自覚してください。しかしながら、実際に看護師生活がスタートすると、学生時代と異なり、そこには多くの困難に直面することと思います。現代の医学や医療でも、改善に向かわない患者さんを看護するときのストレスやジレンマ、また医学や看護学だけでは克服できない社会的障壁など、時に厳しい現実が待っているかと思えます。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人のかかわりが基盤です。患者さんやその置かれた状況を理解し、時には共感し、協調する姿勢は極めて大切で、その繰り返しにより、患者さんとも同僚ともより良い人間関係を築き、必ずや人として成長させてくれます。

本日、卒業という節目に当たり、「看護の魂」について皆さんと共にその心構えを考えたいと思います。本校での学校生活の間に出会った様々な出来事のおかげで、皆さんは今後の臨床現場で、一層心目が開かれ、患者さんへの共感の幅が広がり、自らの人格が形成されることと思います。遠からず皆さんたち一人一人が大変忙しく、必要とされ、必ずやこれを幸せと感じる人生が待っています。「忙しく、必要とされる」、皆さんにとってこれこそ看護をもって人の役に立つことであり、これに勝る幸せはありません。皆さんが手に持ったキャンドルの灯火によって患者さんたちの笑顔や拍手が得られたごとく、自らができることを「与える」ことに努めましょう。

皆さん! 心身ともに健康で、「看護の心」を持ち、学びを重ねて看護師生活を続けられ、この「看護の魂」を感じる看護師になられることを心より願っています。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関、関係施設の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、本日ご出席いただきました皆様と共に、卒業生全員の看護師としての今後の成長と活躍を期待させていただき、私の式辞と致します。

平成30年度附属看護専門学校入学試験結果

附属看護専門学校の平成30年度一般入学試験が、牧野キャンパスにおいて実施されました。前期試験は1月12日(金)に行われ、志願者110名(昨年110名)が受験し32名(内、男子1名含む)が合格。後期試験は2月20日(火)に行われ、志願者49名(昨年47名)が受験し10名(内、男子1名含む)が合格しました。

第107回看護師国家試験結果

3月26日(月)第107回看護師国家試験結果の発表が行われました。附属看護専門学校からは70名が受験し全員が無事合格、合格率100%となりました。なお、全国の合格率は91.0%、大阪府の合格率は91.6%でした。

平成29年度臨床研修修了式

3月28日(水)午後4時45分から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「平成29年度臨床研修修了式」が挙行されました。附属病院澤田敏病院長から同院所属の43名の研修医に、総合医療センター岩坂壽二病院長からは同センター所属の8名の研修医に、それぞれ修了証が授与されました。続いて、両病院長から式辞が、友田幸一学長、金子一成卒後臨床研修センター長から祝辞がそれぞれ述べられました。

最後に、内藤信晶研修医代表が答辞を述べ、穏やかな雰囲気の中、閉式しました。



岩坂病院長(最前列左から三人目)、
澤田病院長(最前列左から四人目)他と修了生一同

初期臨床研修医入職式・オリエンテーション実施

4月2日(月)午前10時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「平成30年度採用初期臨床研修医入職式」が挙行されました。卒後臨床研修センター金子一成センター長から、本年度採用の附属病院所属45名、総合医療センター所属7名の初期臨床研修医に辞令が交付され、白衣を授与された後、祝辞が述べられました。

入職式終了後、4月10日(火)までの日程でオリエンテーションを実施し、4月7日(土)・8日(日)にはホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪市住之江区)において、1泊2日のワークショップを行い、各課題に取り組みました。



ワークショップの様子



学会主催報告

2018年1月～3月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

言語文化学会第31回大会

■会期 2018年3月24日 ■場所 関西医科大学枚方学舎第1講義室

国際コミュニケーション言語としての英語の実用性・汎用性は際立っているが、世界には数千以上とも言われる言語が存在し、さまざまな言語や文化的背景をもった人びとで成り立つという視点が重要になっていることから、言語と文化の在り方を追求する言語文化学会が設立された。年に1回開催される大会は31回目となり、ポルトガル語、インドネシア語など複数言語の教育と文化について議論された。

【大会委員長／英語教室教授 中川 淳】



本学完全監修 書籍刊行！

「実は危ないその症状 自分で探す病気のサイン」

好評発売中

在庫僅少

本学完全監修の書籍「自分で探す病気のサイン」を刊行しました。気になる症状から病気がわかる「疾患ナビ」を掲載。重大疾患、よくある疾患、意外な疾患など全68疾患の症状、原因、治療法について、本学在籍の現役医師が解説します。さらに、最新の医療現場がわかる「先端医療図鑑」や「大学病院の活用法」なども掲載。保存版の1冊です。

21症状掲載

全身がだるい／発熱が続く／体重の急な増減／体の一部、全身がむくむ／眠れない、寝付けない／頭が痛い／めまい・ふらつき／手足が動きにくい、歩きにくい／胸痛・動悸／咳・痰が止まらない／呼吸しにくい、息切れがする／吐きけ・嘔吐／お腹が痛い／便通異常／腰や背中が痛む／血尿・頻尿、尿が出にくい／かゆみと発疹／ものが見えにくい、歪んで見える／耳・鼻・のどの症状／女性に特有の症状／子どもに特有の症状

毎日新聞出版 定価：本体1,080円（税込）
各地の書店等でお求めいただけます。



関西医大 × りそな銀行 @ 枚方 T-SITE

本学監修書籍
(上記参照)
プレゼント

❖ 医療健康セミナー (無料) ❖

いずれも
午後2時～
午後3時

第8回

6月16日(土)

「その息苦しさや胸の痛み、肺のパンク『自然気胸』かも知れません」

附属病院 呼吸器外科 齊藤 朋人 講師

第9回

7月21日(土)

「太りにすぎに注意—肥満と糖尿病—」

附属病院 糖尿病科 豊田 長興 診療教授

※講演テーマ・講師は変更になる可能性があります。

- 会場：枚方 T-SITE 7 階りそな銀行枚方支店 りそなホール（京阪電車枚方市駅南口 直結徒歩約 1 分）
事前申込優先（当日でも空席があれば参加できます）
- お申込み方法：右記 QR コード、または下記 URL からお申込みページへアクセス
- お申込みページ：<https://goo.gl/forms/wJNsvRfZaEIFQpS53>





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に平成30年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

内科学第一講座 宮良 高維 診療教授	AGORA (1月1日)	12月16日(土)に枚方T-SITE 7Fりそな銀行枚方支店内で開催された本学主催の医療健康セミナー「その方法で大丈夫? インフルエンザ予防」が取り上げられ、宮良診療教授(附属病院呼吸器・感染症内科)の講演の様子が紹介されました。
救急医学講座 鎌方 安行 教授	毎日新聞 朝刊 (1月16日)	「ご近所のお医者さん」コーナーに鎌方教授(大阪府医師会理事)が登場し、救急車の適正利用の呼びかけや、阪神淡路大震災が起こった1月17日を前に防災に関して自分でできる対策や心構えなど、「自助」の重要性について訴えたコメントが掲載されました。
くずは病院	毎日新聞 朝刊 (1月21日)	本学5つ目の附属医療機関・関西医科大学くずは病院が開院したことが掲載され、地域医療、高齢者の健康寿命延長に重点を置いた地域密着型病院を目指すことなどが紹介されました。
法医学講座 赤根 敦 教授	読売新聞 朝刊 (1月26日)	容疑者特定などに用いられるDNA鑑定技術に関する特集記事中で、赤根教授が「高感度になったがゆえの『落とし穴』がある」と、近年精度が格段に向上したため偶然混入した他人のDNAを検出してしまふ危険性を指摘したコメントが掲載されました。
関西医科大学	AGORA (2月1日)	1月20日(土)に枚方T-SITE7Fりそな銀行枚方支店内で開催された本学主催の医療健康セミナー「子どものアレルギーについて」が取り上げられ、畑塾助教(附属病院小児科)の講演の様子が紹介されました。
皮膚科学講座 岡本 祐之 教授	読売新聞 朝刊 (2月4日)	皮膚の病気をテーマとした「病院の実力(大阪編)」において、岡本教授(附属病院皮膚科診療部長)が、皮膚がんやアトピー性皮膚炎の治療法などについて解説した記事が掲載されました。またあわせて、附属病院の治療実績も紹介されました。
脳神経外科学講座 埜中 正博 診療教授	読売新聞 朝刊 (2月9日)	児童虐待の症状とされる「乳幼児揺さぶられ症候群」(SBS)をテーマとした国際シンポジウム(2月10日開催)が取り上げられ、SBSと虐待の結びつきを疑問視する動きに関連し、転倒でも症状が起る可能性や今後の課題についてなど、埜中診療教授のコメントが掲載されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	ABCラジオ 「おはようパーソナリティ道上洋三です」 (2月28日)	「話のダイジェスト」のコーナーで「心不全」がテーマとして取り上げられ、心不全に繋がる症状、予防法や治療法を木村教授が解説しました。
生理学第一講座 小原 圭吾 講師	朝日放送 「雨上がりの「Aさんの話」～ 事情通に聞きました!」 (3月7日)	記憶力をテーマとしたコーナーに、記憶の研究者として生理学第一講座小原圭吾講師がテロップで出演。この日の出演者に出題された記憶力テストを作成したこと、その回答についての解説が紹介されました。
附属病院健康科学センター 木村 穰 センター長	読売新聞 朝刊 (3月9日)	椅子に座ったままステップを踏み、上半身の運動も同時に行える「腰掛タップダンスR」人気の広がりを紹介する記事の中で、木村センター長の、腰掛タップダンスRのメリットを解説するコメントが掲載されました。
総合医療センター神経内科 近藤 誉之 診療教授	朝日新聞 朝刊 (3月14日)	難病の多発性硬化症で近年、再発予防薬の種類が増えたことを紹介する記事の中で、近藤診療教授(神経内科学講座診療教授)の「選択肢が増えたことで再発で入院を繰り返す患者が少なくなった」とのコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

いよいよ看護学部もスタートしました。桜も今年は例年より開花が早かったようで、入学式にはほぼ散ってしまって少し残念でした。あつという間だった為、お花見に行く暇もありませんでした。桜といえば、学生の頃、知り合いに「哲学の道の近くにあおい桜があるよ」と教えてもらい、必死に探したことがあります。「あおい」と言われたので、てっきり「青色か水色」だと思っていたのですが、調べてみるとその正体は「御衣黄」という栽培品種のことでした。(大)

関西医科大学広報 Vol.41

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成30年6月15日(金)発行